台湾情報誌

Oct 2023 10

Vol.991

交流

米台関係の動向と分析

文化講座「赤べこ絵付け体験」

公益財団法人　日本台湾交流協会
Japan-Taiwan Exchange Association

交流

CONTENTS

2023
vol.991
10

目 次

アメリカの台湾政策をどう読み解くべきか
佐橋亮 …… 1

次期総統選挙は４候補での争いに（2023 年 7 月上旬 -2023 年 10 月上旬）
石原忠浩 …… 7

ジュディ・オングさん　版画展
「無限Ⅱ　倩玉的版画世界」インタビュー …… 15

片倉佳史の台湾歴史紀行　第二十五回
台湾縦貫鉄道を誌上体験　その４（新竹～台中）
片倉佳史 …… 22

日本台湾交流協会事業月間報告（９月実施分）…… 32

※本誌に掲載されている記事などの内容や意見は、外部原稿を含め、執筆者個人に属し、公益財団法人日本台湾交流協会の公式意見を示すものではありません。
※本誌は、利用者の判断・責任においてご利用ください。
万が一、本誌に基づく情報で不利益等の問題が生じた場合、公益財団法人日本台湾交流協会は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

日本台湾交流協会について

公益財団法人日本台湾交流協会は外交関係のない日本と台湾との間で、非政府間の実務関係として維持するために、1972年に設立された法人であり、邦人保護や査証発給関連業務を含め、日台間の人的、経済的、文化的な交流維持発展のために積極的に活動しています。
東京本部の他に台北と高雄に事務所を有し、財源も大宗を国が支え、職員の多くも国等からの出向者が勤めています。

表紙写真

９月16日（土）、台北事務所にて文化講座「赤べこ絵付け体験」を開催しました。
当日はオンラインで日本と繋ぎ、講師の先生方より、福島や会津地方について紹介いただきました。参加した子どもたちは、赤べこの絵付け体験だけではなく、作品発表やクイズにも積極的に参加し、熱心に活動に取り組みました。

アメリカの台湾政策をどう読み解くべきか

東京大学東洋文化研究所准教授　佐橋　亮

はじめに

アメリカが台湾に向かい合う姿勢は変わった。それは対中戦略の変化を一つの背景とするが、台湾における民主主義の発展、半導体受託製造能力を中核とする高度な技術力の賜物でもある。オバマ政権末期に変化の兆しが現れ、ドナルド・トランプ政権がその動きを加速させたが、ジョー・バイデン政権も台湾に対する長年の自主規制を取り払い、その関係構築は実に堂々としたものとなっている。

こういった関係性の変化、アメリカの台湾政策の変化を認めた上で、それでも変わらないものもある。台湾関係法を越えるような立法がされたわけでもなく、アメリカ政府は中国との衝突回避を念頭にその台湾政策の前提が変化したという印象を作らないように配慮を欠かさない。アメリカの「一つの中国」政策の形骸化が著しいのは事実としても、公式の政策としては「一つの中国」政策は維持されている。バイデン大統領の相次ぐ台湾防衛に関する発言[1]によって中国の受け止めが変化しているにせよ、戦略的な曖昧性も残されている。

あえてワシントンにありふれた言葉を使えば、中国との「大国間競争」も（衝突回避のための）「ガードレール」も同時に追求するというのがバイデン政権の姿勢だ。[2]そのため、中国との交渉姿勢が、2022年秋の首脳会談、23年６月のアンソニー・ブリンケン国務長官訪中、その後相次ぐ閣僚級の訪中によって維持されている。

台湾に大きな価値を認めつつも、すでに米中対立によって損なわれている中国との関係の安定性を完全に犠牲にしてまで台湾との関係強化を図ろうという声は未だ支配的ではない。だからこそ、バイデン政権も連邦議会も、台湾との実質的な防衛力強化を象徴的な関係性強化に優先させている。

本稿では、以上のような視点に立ってアメリカの台湾政策の過去10年弱の変化、とりわけバイデン政権期の動きを分析する。

１．トランプ政権までの台湾政策の変化

政府の動きは、オバマ政権末期から変わり始めていた。スーザン・ソーントン国務次官補代行（当時）は早くも2015年に台湾の民主主義をたたえ、また中国批判を公に行ったが、2016年の蔡英文当選もワシントンでは広く歓迎された。それは

1　バイデン大統領による、いわゆる台湾防衛に係わる「失言」は以下の通りであり、少なくとも途中から政府側の振り付けがあるとの見解もあるが、現時点で立証は困難である。“Full transcript of ABC News' George Stephanopoulos' interview with President Joe Biden” ABC News, August 19, 2021. <https://abcnews.go.com/Politics/full-transcript-abc-news-george-stephanopoulos-interview-president/story?id=79535643>; “Remarks by President Biden in a CNN Town Hall with Anderson Cooper,” The White House, October 21, 2021. <https://www.whitehouse.gov/briefing-room/speeches-remarks/2021/10/22/remarks-by-president-biden-in-a-cnn-town-hall-with-anderson-cooper-2/>; “Remarks by President Biden and Prime Minister Kishida Fumio of Japan in Joint Press Conference,” The White House, May 23, 2022. <https://www.whitehouse.gov/briefing-room/speeches-remarks/2022/05/23/remarks-by-president-biden-and-prime-minister-fumio-kishida-of-japan-in-joint-press-conference/>台湾独立に係わる発言は以下。“President Joe Biden: The 2022 60 Minutes Interview,” CBS News, September 18, 2022.

2　参考として、以下。David M. McCourt, “Knowing the PRC: America’s China Watchers between Engagement and Strategic Competition,” Wilson Center, 2022.

2012年にオバマ政権がみせた蔡英文候補への冷遇、馬英九総統への熱視線と対照的なものだ。[3]

それでも、やはりトランプ政権の台湾政策は大きな分水嶺といえる。大統領当選直後に蔡英文からの祝意の電話をトランプ大統領が受けたことが波紋を引きおこすと、新政権は従来の「一つの中国」政策の「尊重」を公表した。それでも、2017年末の国家安全保障戦略では台湾に数行を割いた。2018年２月に政府内で作成されたトランプ政権の「インド太平洋戦略フレームワーク」（当初非公開）には以下の記述がある。「（１）第一列島線内の有事における中国の持続した航空優勢、海上優勢を拒否する。（２）台湾を含め、第一列島線に位置する国家を防衛する。（３）第一列島線を越えたところではすべてのドメインを支配する」[4]。台湾防衛の意図はここでかなり明確にされている。

公表されたトランプ政権の「インド太平洋戦略」[5]にも、台湾は明確に組み込まれている。オバマ政権によるアジアへのピボット（またはリバランス）を示す一連の政府演説や文書では台湾がそのように取り上げられることはなかった。環太平洋パートナーシップ協定（TPP）と台湾の加盟にかかわる議論が正面から行われたわけでもない。

蔡英文総統のアメリカへの立ち寄りにおいても、連邦政府機関の訪問や各国国連大使を招いてのレセプション、コロンビア大学での講演などが実施されている。台湾旅行法に後押しされるようにトランプ政権からも、外交儀礼上これまでで最高位にあたる厚生長官や国務次官、インド太平洋軍幹部の訪台がみられた。内容は象徴的な側面が強いにせよ、アジア再保障法、TAIPEI法、台湾保障法といった立法がなされている。

武器売却を他の国に対する有償軍事援助の運用のように「恒常的な」ものにするとの発言をランディ・シュライバー国防次官補（当時）は行っている。実際にトランプ政権期に４年間でオバマ政権のおおよそ倍の武器売却が認められる。

２．アメリカにとって台湾が有する価値

なぜアメリカの台湾政策は変わり始めたのだろうか。従来、アメリカの台湾関与を支えてきたのは、法的な意味では「一つの中国」政策だが、政治的な意味では台湾の戦略的重要性だった。現在ではそれらに加えて、より多くの価値を台湾に認めているようにみえる。それらが変化の原動力ではないだろうか。

順に見ていきたい。まず、戦略的重要性である。これは、もし台湾島が中国の手中に落ちた場合に、それを「踏み石」として爾後の人民解放軍の軍事活動が展開しやすくなるため、アメリカの世界戦略としてそれを看過できないという発想である。こうした地政学的な戦略的な価値に加え、戦略的重要性にはもう一つの側面がある。すなわち、同盟国を世界各地で確保しようという戦略的な発想から、アメリカは同盟国への信頼性を守ろうとしてきた。これは冷戦期からみられるのだが、この発想に立つと、自らの陣営に属するとみられるものを守らなければ、それ以外の同盟国からの信頼を失い同盟網が崩壊するということになる。台湾は1979年の米華相互防衛条約の停止によって同盟国ではないにせよ、台湾の取り扱いが東アジアの同盟網やアメリカの政治的影響力に重要な影響を与えるという考えは根強い。

歴史的にはこのような戦略的重要性という観点がアメリカの台湾関与を説明するために有用だった。現在は、これに加え二つの新しい価値が認められているようにみえる。

第一に、政治的価値である。民主化し、それが定着した台湾は世界的に見ても民主主義のモデルケースとなっている。実のところ、2012年総統選まではこのような見方はアメリカで弱かった。しかし、民主主義の世界的後退、さらに権威主義国家による民主主義への多様な影響力工作、経済的威圧による政治手法が明らかになるにしたがっ

3　佐橋亮「米国の対台湾政策と総統選挙」『日本台湾学会報』第23号（2021）
4　Memorandum of National Security Council, “U.S. Strategic Framework for the Indo Pacific,” February, 2018. <https://trumpwhitehouse.archives.gov/wp-content/uploads/2021/01/IPS-Final-Declass.pdf>この文書はトランプ政権末期の1月に公表されており、その狙いは次期政権にこの方針を継承させるために、政治的圧力を行使しようとしたことにあるのだろう。
5　Department of Defense, “Indo Pacific Strategy Report” June 1, 2019.

て、台湾に注目が集まるようになった。

第二に、台湾経済を世界経済のチョークポイントとみる考え方も広まった。台湾積体電路製造（TSMC）、聯発科技（メディアテック）を初めとする半導体関連企業、また鴻海科技集団（フォックスコン）のような電子機器受託生産企業の成長によって、世界のサプライチェーンにとって台湾経済がもつ重要性は明らかになった。2021年３月にバイデン政権が発表した「国家安全保障戦略指針（暫定版）」にも、台湾は「先進的な民主主義であるだけでなく経済、安全保障における死活的なパートナー」と異例の表現が入っている。とくに経済における役割をこれほど正面から認めたことは、歴史的にみれば台湾にかける期待がすっかりと変質したことを示している。[6]なお、2022年10月に公表された「国家安全保障戦略」においては、「台湾海峡の平和と安定が地域と世界の安全と繁栄に死活的」という表現に落ち着いている。

単なる中国強硬姿勢の裏返しではなく、このように複合的な価値が台湾に認められるようになったことで台湾政策の継続性が確保されている。トランプ政権には親台派とみられる政府高官が多数いたが、彼らが職を去った後も、とくに台湾政策の勢いが弱まることはなく、むしろ強まった。

３．バイデン政権の発足

バイデン政権は、発足直後から中国戦略全般の見直しを進めた。技術覇権の確保、情報空間の安全確保、また自由主義的な国際秩序の擁護といった目標を前政権と共有しつつ、政策手法として同盟国中心の制度作り（ミニラテラリズム）、経済規制の活用、国家主導の科学技術振興を前面に押し出している。ただし前政権と異なり、中国共産党統治への直接の批判を封じ、アメリカ国内の中国系を含むアジア系住民への配慮を重視していることも特徴的だ。

それでは、台湾政策はどうだろうか。2021年１月に指名公聴会に挑んだブリンケン国務長官候補、ロイド・オースティン国防長官候補はそれぞれ、台湾に関して印象的な発言を残した。ブリンケンは、台湾とは「接触する余地が未だ大きい」、「台湾は世界において大きな役割を果たすようになった」と発言し、今後台湾との協力の余地を広げていくことへの意欲を示した。オースティンは、政権としても繰り返し使用していくことになる、米台関係が「岩のように堅い」という表現をしている。[7]そして、連邦議会議事堂襲撃事件から２週間という厳戒ムードで行われたバイデン大統領の就任式には、大統領就任合同委員会からの正式な招待により、台北駐米経済文化代表処の簫美琴駐米代表が出席する。

国務省の対応も当初から踏み込んだものになった。発足直後から、国務省報道官による声明も、米中関係の基礎文書として「６つの保証」について触れている。[8]６つの保証を連邦議会ではなく政府が触れることは異例なことだったが、この方針はその後も継続している。アメリカの国務省職員や外交官が台湾の政府関係者とアメリカ政府の建物内でも会えるようにもなった。[9]台湾の世界保健総会（WHA）への参加を支持するというバイデン政権の立場も公表された。

これらは台湾のもつ価値を認めたうえでの対応だろう。その一方で、アジア政策の伝統的な考え方といえる、台湾問題の管理という視点も当初からみられた。ホワイトハウス国家安全保障会議に新たに設けられたインド太平洋調整官に就任したカート・キャンベルは、就任直前にも関わらず両岸対話を慫慂するような発言を行い、ジェイク・サリバン大統領補佐官と共著した論文でも台湾に関して安定を重視する点を明確にしていた[10]。

6 The White House, “Interim National Security Strategic Guidance,” March 2021. < https://www.whitehouse.gov/wp-content/uploads/2021/03/NSC-1v2.pdf>
7 Testimony, Antony J. Blinken, Foreign Relations Committee, United States Senate, January 19, 2021. Testimony, Lloyd J. Austin III, Armed Services Committee, United States Senate, January 19, 2021.
8 Ned Price, Department Spokesperson, US Department of State, “PRC Military Pressure Against Taiwan Threatens Regional Peace and Stability,” January 23, 2021.<https://www.state.gov/prc-military-pressure-against-taiwan-threatens-regional-peace-and-stability/>
9 Department of State, “New Guidelines for U.S. Government Interactions with Taiwan Counterpart,” April 9th, 2021.<https://www.state.gov/new-guidelines-for-u-s-government-interactions-with-taiwan-counterparts/>

4．インド太平洋戦略に位置づけられた台湾

アメリカ政府や連邦議会と台湾との交流は目に見えて増えた。先鞭をつけた動きは、クリス・トッド元上院議員、リチャード・アーミテージ元国務副長官ら元政府高官の訪問だ。この訪問はバイデン大統領の要請で実行されたと報道されている。[11]2021年には少なくとも９名の上下両院の連邦議員が台湾を訪問しており、軍用機が一部の旅程で使用されている。くわえて、2021年12月に行われた「民主主義のためのサミット」には唐鳳（オードリー・タン）政務委員がオンライン参加した。2022年２月にホンジュラスを訪問した頼清徳副総統は、カマラ・ハリス副大統領と言葉を交わしてもいる。

米台の貿易協議が開始されたことに加え、米海兵隊が台湾において合同訓練を１年にわたって実施しているとの報道もみられたように多面的な関係強化が観察された。[12]台湾への武器売却もM109A6パラディン、ペイトリオット・システム改修などが認められていった。

米市民のあいだで台湾への見方が様変わりしたことも米台関係の土台を強くした。シカゴ国際問題評議会による2021年夏の調査では、台湾有事における米軍派遣については従来よりも大幅に数字が伸び、52％の支持となっている。[13]

議会より慎重な姿勢を示すことの多い政府関係者も時に踏み込んだ発言を始める。2021年12月に上院で証言したイーライ・ラトナー国防次官補は、「第一列島線の死活的な結節点（node）」、またアメリカの同盟ネットワークの「アンカー（anchor）」として、台湾が死活的な戦略的重要性をもっていると強調した。[14]このような表現は歴史的にもみられないほどのものだ。

22年２月に公表されたバイデン政権の「インド太平洋戦略」も、中国による台湾への圧力に警戒を示しただけでなく、「インド、インドネシア、マレーシア、モンゴル、ニュージーランド、シンガポール、台湾、ベトナム、太平洋諸島など、地域の主要パートナー」として台湾を並べてみせた。[15]「台湾の将来が、台湾に住む人々の希望と最善の利益に基づいて平和的に決定される環境を確保する」との表現は早くはクリントン政権期にも同種の表現があるにしても現在の文脈に置けば重要な意味を持ってくる。なお、両岸対話を慫慂するという点はここでは抜け落ちていた。

2022年５月に行われたブリンケン国務長官による中国政策演説は、現在でもバイデン政権の重要な指針を示しているものと評価されている。この演説は投資、連携、競争というキーワードで対中政策を説明したが、台湾に関しては防衛能力への支援や、台湾が持つ民主主義、経済といった価値に言及してみせている。さらに、「我々の政策に変化はないが、変わったのは、北京が台湾と世界各国との関係を断とうとしたり、国際組織への参加を妨害したりするなど、威圧的な態度を強めていることだ。解放軍空軍の航空機をほぼ毎日台湾の近くに飛ばすなど、北京はますます挑発的な言動を行っている。こうした言動は地域を深刻に不安定化させるものであり、誤算を招き、台湾海峡の平和と安定を脅かす危険性がある」と、かなり強く中国を牽制してみせた。[16]

ブリンケン演説の直前、岸田文雄首相、韓国の

10 Kurt Campbell and Jake Sullivan, “Competition without Catastrophe ,” *Foreign Affairs* September/October, 2019.
11 『日本経済新聞』2021年４月14日。
12 Gordon Lubold, “U.S. Troops Have Been Deployed in Taiwan for at Least a Year,” *Wall Street Journal*, October 7, 2021.
13 台湾を独立国として承認すること（賛成69%、以下同様）、台湾の国際機関への参加を支援すること（65%）、米台自由貿易協定を締結すること（57%）、米国が台湾と正式な同盟を結ぶこと（53%）、中国が侵略してきた場合の台湾防衛にコミットすること（46%）がある。Dina Smeltz and Craig Kafura, “For First Time, Half of Americans Favor Defending Taiwan If China Invades,” The Chicago Council on Global Affairs, August 2021.<https://www.thechicagocouncil.org/sites/default/files/2021-08/2021%20Taiwan%20Brief.pdf>
14 Statement by Ely Ratner, Assistant Secretary of Defense, before the 117th Congress, Committee on Foreign Relations, US Senate, December 8, 2021.<https://www.foreign.senate.gov/imo/media/doc/120821_Ratner_Testimony1.pdf>
15 The White House, “Indo-Pacific Strategy of the United States,” February 2022.
16 Anthony J. Blinken, “The Administration’s Approach to the People’s Republic of China,” U.S. Department of State, May 26, 2022. < https://www.state.gov/the-administrations-approach-to-the-peoples-republic-of-china/>

尹錫悦大統領と会談したバイデン大統領も、台湾海峡の平和と安定の重要性を相次いで共同声明によって確認しており、翌月のＧ７首脳会談でも同様のことを行った。国際的な連携の上に、台湾海峡を位置づけようという外交姿勢が見てとれる。

５．台湾海峡有事への警戒

21年３月、インド太平洋軍司令のフィリップ・ディビッドソン海軍大将（当時）は上院公聴会において、６年以内に人民解放軍による台湾侵攻があり得るとの発言を行った。その後も米軍幹部による台湾有事への言及が相次ぐ。[17]バイデン政権のメンバーも相次いで台湾海峡における現状変更に反対するとの趣旨を説明し始めた。[18]

例年公表される国防総省の中国の軍事力に関する年次報告書も、2021年秋に、「中国人民解放軍は、台湾の独立への動きを抑止し、必要であれば台湾に独立を断念させるために、台湾海峡での有事に備え続けている。また、台湾を武力で中国に統一し、同時に、米国や他の友好的なパートナーなど、台湾のために第三者が介入することを抑止、遅延、拒否するための準備も行っていると思われる」との分析を公表している。中間線の存在を中国側が否定し始めたことへの警戒も見られる。[19]

2022年夏のナンシー・ペロシ下院議長（当時）による台湾訪問は、連邦議会における対中強硬論の高まり、台湾への注目を象徴するような出来事だった。1979年の米華断交、台湾関係法の制定を踏まえ、台湾との関係構築に連邦議会は超党派的に熱心に取り組んできた歴史的経緯がある。バイデン政権は当初、実施を止めようとしたが、中国への配慮によって議会活動が制約されることを認めるわけにはいかず容認に傾き、ペロシ議長は民主党議員数名を伴って台湾に降り立つ。[20]

ペロシ議長が台湾を離れたあと、８月４日から軍事演習が開始された。かねて計画が存在していたかのような、大胆でありつつ綿密な内容であり、台湾海峡の中間線を実質的に否定する動きでもあった。演習の規模の大きさに加え、その常態化も予想される中で、アメリカの戦略国際問題研究所（CSIS）は第四次台湾海峡危機と銘打ったプロジェクトページを公表したほどだった。

2022年８月の事態は、軍事衝突の蓋然性やアメリカ、台湾側の対応を考えても、1954～55年、58年、95～96年と肩を並べる台湾海峡危機とは呼びがたい。[21]米中台いずれのアクターも軍事衝突をする意志を持たず、政治的な目的に沿った行動をしていたことが相手にも伝わっていた。

それでも、事態が深刻に思われた背景は、過去40年の米中関係においても今がもっとも戦略的な不信が相互に強く、緊張が解けるためのきっかけが得づらく、むしろ台湾リスクが高まったまま継続することに懸念がもたれたからだ。だからこそ、当時立法の動きがあった台湾政策法案が中国に刺激的な内容を持つと、保守派論客ですら反対したのである。[22]

台湾への防衛支援に超党派的な議会の支持と政府の呼応があるにしても、それは米中対立の全体

17 海軍作戦部長、統合参謀本部儀長の発言は以下。“CNO Speaks at Atlantic Council's Commanders Series,” U.S. Navy, October 19, 2022. <https://www.navy.mil/Press-Office/Press-Briefings/display-pressbriefing/Article/3195802/cno-speaks-at-atlantic-councils-commanders-series/> Secretary of Defense Lloyd J. Austin III and Army General Mark A. Milley, Chairman, Joint Chiefs of Staff, “Hold a Press Briefing Following Ukrainian Defense Contact Group Meeting,” Department of Defense, November 16, 2022. <https://www.defense.gov/News/Transcripts/Transcript/Article/3220910/secretary-of-defense-lloyd-j-austin-iii-and-army-general-mark-a-milley-chairman/>

18 “Full transcript of ABC News' George Stephanopoulos' interview with President Joe Biden,” ABC News, August 19, 2021. https://abcnews.go.com/Politics/full-transcript-abc-news-george-stephanopoulos-interview-president/story?id=79535643バイデン大統領は10月にもCNNのタウンホール・ミーティングで台湾防衛の意思を問われて、台湾防衛には「米国はそうするコミットメントがある」としている。なおホワイトハウスはすぐに発言を修正している。“Biden vows to protect Taiwan in event of Chinese attack,” CNN, October 22, 2021.

19 Department of Defense, “Military and Security Developments Involving the People’s Republic of China 2021,” November, 2021, p.99.

20 Demetri Sevastopulo and Kathrin Hille, “Nancy Pelosi’s Plan to Visit Taiwan Prompts Outrage from China,” *Financial Times*, July 19, 2022. Paul Mozur, Amy Chang Chien, and Michael Shear, “Nancy Pelosi Arrives in Taiwan, Drawing a Sharp Response From Beijing,” *The New York Times*, August 3, 2022.

21 1962年を危機と呼ぶことが少ないのも可能性及びアクターの動きからみれば同様の事情だろう。過去の台湾海峡危機、および1962年については、佐橋亮「米中関係と危機：政治的意思による安定とその脆弱性」東大社研・保城広至編『国境を越える危機・外交と制度による対応―アジア太平洋と中東』東京大学出版会、2020年。

的な構図におけるアメリカの戦略的利益を満たす限りにおいて成立するのである。台湾有事が実際に発生してしまえば長期化し、アメリカにとって戦略的な失点になるという見方もある。

今の対中戦略の中軸をなす考え方は、とくに経済、科学技術を念頭に、中国よりも常にアメリカが先を走っている状況を確保することにある。ブルッキングス研究所の研究者たちの言葉を用いれば、アメリカに「優位性」があれば、アメリカは中国と「共存」できる。[23]関与論とは全く異なるが、こうした思考様式と、それに基づいた対中戦略は、トランプ政権(とくに末期)の考えやイデオロギー対立論ともだいぶ趣が異なる。

2022年後半以降も、バイデン政権の動きは戦略的な課題としての中国に焦点を当てていた。米中首脳会談等にみられるように外交が強調され、バイデン政権は中国における人権問題に関して積極的発言を控えていた。連邦議会も、台湾への防衛支援を加速させる一方で、「一つの中国」政策に関わるような内容を法案に盛り込むことは最終的には回避した。[24]

おわりに

2023年４月には、蔡英文総統がマッカーシー下院議長（共和党）とロサンゼルスにて会談を実施し、中国は軍事演習の実施や経済的威圧行為でそれに応じている。しかし、この背景にあったアメリカ政府の動きをみると、ペロシ訪台の経緯も踏まえ、台湾との関係強化が中国とのあいだで管理不能なほどの緊張を作ることを回避しようとする意図が明確に表れていた。８月に米国を訪問した頼清徳副総統の活動も限定されたものとなった。

もちろん、米台関係の強化は止まらない。武器売却だけでなく、2023年には初めてとなる米軍備蓄の直接供与も実施されている。また米台貿易交渉でもいわゆる第１段階の合意がみられた。台湾が有する価値そのものは広く認められている。台湾との関係強化にある種のブレーキが見られるとすれば、それは政策の進め方がアメリカの戦略的利益にかなうかという点での判断によるということだ。

台湾への関与縮小の可能性はあるのだろうか。アメリカには「抑制論」という議論があり、それは対外関与を全般的に縮小すべく見直すべきという大戦略レベルでの議論だ。その一例として、クインシー研究所は、台湾に関して中国との合意に立ち戻ることを推奨し、台湾海峡周辺での米軍の活動を減少させ、また台湾に行動の自制を求めるべきと述べている。[25]アフガニスタン撤退によってテロとの戦いから抜け出たところで、ロシア・ウクライナ戦争への支援に直面しているアメリカが、長期的に対外関与を見直す可能性はないとはいえない。他方で、ウクライナよりも台湾・アジアへの軍事支援を重視する保守的な論者も、現地の同盟国・パートナーの自助努力を不可欠な要素とみている。応分の負担がないとみれば、アメリカの姿勢が変化することもあり得る。

それでも、基本的にはアメリカの台湾への関与はむしろ高まっていくだろう。台湾が有する複合的な価値がこれほどまでに認められたことはない。伝統的な安全保障、経済安全保障の両面において東アジアにおける協力相手を求めているアメリカにとって、台湾は欠かすことのできないパートナーと考えられている。

※本稿は、2020年度から2022年度にかけて、日本国際問題研究所「国際秩序の動揺と米国のグローバル・リーダーシップの行方」（米国研究会）に各年度提出してきた報告書をもとにしたものである。

22 Richard L. Armitage and Zack Cooper, “Getting the Taiwan Policy Act Right,” War on the Rock, August 29, 2022. <https://warontherocks.com/2022/08/getting-the-taiwan-policy-act-right/>.なおボニー・グレイザーのような保守的な中国専門家も、明確にペロシ訪台への反対論を採っていた。Bonnie Glaser and Zack Cooper, “Nancy Pelosi’s Trip to Taiwan Is a Dangerous Gamble,” *The New York Times*, July 29, 2022.

23 Ryan Hass, Patricia M. Kim, and Jeffrey A. Bader, “A Course Correction in America’s China Policy,” Brookings Institution, November 2022. <https://www.brookings.edu/research/a-course-correction-in-americas-china-policy/>

24 第116議会（2020-21年）において提出された台湾に関係する法案は91件で第117議会（2021-22年）では153件と急増している。それ以前は99-00年の72件が最多であった。

25 Michael D. Swaine, “Call for Mutual Reassurance,”Quincy Brief, No.31, October 24, 2022. <http:// quincyinst.org/report/endirg-the-destructive-sino-u-s-interaction-over-taiwan-a-call-for-mutual-reassurancel>

次期総統選挙は４候補での争いに
（2023年７月上旬-2023年10月上旬）

石原　忠浩
（台湾・政治大学日本研究プログラム助理教授、国際関係研究センター助理研究員）
（元(財)交流協会台北事務所専門調査員）

【概要】

次期総統選挙は、郭台銘（テリーゴウ）氏が無所属候補として出馬表明を行い、頼清徳、侯友宜、柯文哲４氏での争いの公算が高まった。次期総統候補の外遊が相次いだ。頼清徳副総統はパラグアイ訪問と米国への立ち寄り、侯氏は日本、米国を訪問、柯氏も今春に続き２度目の米国訪問を行い、有権者にアピールした。安倍元総理の昭恵夫人が民間団体の招きで訪台した。

１．総統選挙関連

正式な総統副総統選挙の立候補の届け出の締め切りは11月24日だが、今夏は各候補が事実上の選挙活動を始めている。10月上旬の段階では、リードしながらも攻勢から守勢を余儀なくされた民進党の頼候補、苦境を脱し攻勢に転じつつある国民党の侯候補、攻めあぐねる民衆党の柯候補、満を持して出馬宣言をした郭候補となる。

９月12日、中央選挙委員会の李進勇主任委員は来年１月の総統選挙の有権者は約1950万人、今回の選挙で初めて投票権を有する若年層は102.8万人になると報告した。また無所属で総統選挙に出馬意向を示した候補は、2020年総統選挙の有権者総数の1.5％（約29万人）の有権者の署名書類の届け出が必要になるとの説明がなされた。以下、有力４候補の動向を整理する。

（１）民進党外遊と米立ち寄りで支持率高も鶏卵問題で９月は守勢に

７月16日、民進党は全国党代表大会を開催し、民進党政権下の業績を出席者に説明したほか、蔡総統も登壇し党内の団結を呼びかけた。頼主席は、教育面の政見として６歳までの国家による養育費の負担を提起するなど、自身を野球の救援投手に例え、ブルペンでの準備は十分であり、いつでも登板し全力投球できると自信を示した。

頼副総統は８月12日から、蔡総統の特使として、パラグアイのサンティアゴ・ペニャ大統領の就任式出席のため同国を訪問し、往路と帰路では米国に立ち寄った。2018年の同国の大統領就任式には蔡総統が出席したが、今回は蔡総統に代わり頼副総統が特使として訪問することになった理由は特に説明はされてないが、総統候補としての外交活動のアピール、米国関係者との直接の意思疎通と考えられる。

往路のニューヨークでの立ち寄りでは華僑団体との宴席への出席と講演、現地米台の青少年との対話、米国在台湾協会（AIT）関係者と米大リーグ・メッツ戦の観戦という日程をこなした。14日から16日のパラグアイ訪問では、14日に退任するベニテス大統領及びペニャ次期大統領と会見した。翌15日は同国の衆参両院議長などと会談したほか、台湾とパラグアイ両国で設立した大学関係者と交流し、人材、教育など幅広い分野での協力の推進につき合意した。同日夜は現地在住の華人関係者らの宴席に出席した。16日は、大統領就任式に出席後、随行記者団との茶話会を催しパラグアイとの友好関係を深め、協力関係を開拓し、他国の首脳と交流する当初の任務を果たすことができたと今訪問の成果を強調した。

復路のサンフランシスコでの立ち寄りでは、蕭美琴駐米代表、ローゼンバーガーAIT理事長が副総統一行専用機の機内に赴いて出迎えたほか、現地華人関係者と会食した。今回の頼副総統の米国立ち寄りは、公開情報では、「トランジット」の趣旨に相応しい、単純な立ち寄りであった。

しかしながら、中国政府は台湾の要人が米国に立ち寄ること自体を問題視しているのは間違いない。頼氏の外遊前に、外交部は「頼はトラブルメーカー」と批判したほか、頼氏が外遊を終えた直後、中国軍は台湾周辺での軍事演習を発表するなど、蔡総統が今年４月に外遊した際と同じ方式で「報復」した。中国の対応に対し、大陸委員会は軍事的挑発であるとして譴責し、中国こそ同地域のトラブルメーカーであると批判した。他の総統候補も中国の軍事演習に関しては、異口同音で台湾海峡の安定を破壊しないよう呼びかけた。

今回の頼副総統の外遊は、台湾において好意的に捉えられ、台湾各社の世論調査では支持率が上昇し、独走態勢に入りつつあるとの報道が多数を占めた。

８月末には後述する郭氏の出馬宣言もあり、民進党陣営には楽勝ムードが漂ったのかのように、台湾のメディアは、「頼は寝そべったままでも選挙に勝てる」と揶揄する報道が散見されるようになった。

好事魔多し。９月に入ると、民進党は受け身に回る事態に陥る。今年の春先に食用鶏卵が深刻な不足となった際に、政府は緊急用に複数の国から輸入し、急場を凌いだが、輸入業者の選定、賞味期限の改竄、産地偽装、管理不適による多大な廃棄鶏卵の発生、業者への過度な補助金の拠出などが問題視され、反民進党政権の立場が顕著な『中国時報』、『聯合報』紙は連日報道し、批判キャンペーンを展開した。行政院も、一部の輸入鶏卵が国産物として国内産に混じって販売された事例や冷蔵管理の不行き届きで大量の鶏卵を廃棄せざるを得なかったことなど一部の事実を認め、最終的に陳吉仲農業部長、林聰賢中央畜産会董事長が19日に引責辞任したほか、22日には陳建仁が立法院で陳謝することになった。

27日、民進党は台北市で建党記念活動を行った。頼主席は同活動の挨拶で民主を促進させていく決心は不変であるとの決意を強調した。また、副総統候補について、公の場で初めて「女性を優先」との発言がなされた。副総統候補については、蕭美琴駐米代表、鄭麗君元文化部長などの名前が頻繁に取りざたされている。

（２）国民党　党内整合が完成、外遊も成功し、支持率上昇の兆し

今夏の国民党は、侯市長自身が両岸関係に関する立場の表明や、韓国瑜を支持する党内の深藍（ディープブルー）と呼ばれる勢力との関係修復などを通じて、党内候補の立場を安定したものにし、８月の訪日、９月の訪米を通じて内外に国民党候補として民進党政権に挑む有力候補のイメージを印象付けるのに成功した。

７月３日、侯氏は、1994年に第三勢力を標榜し結党した新党（注：2023年現在では、急進的統一派政党になり、立法院には議席を有していない）創立メンバーであり、閣僚、立法委員などを歴任し、現在でも国民党に一定の影響力を有する趙少康氏のTV番組に出演し、「中華民国憲法に合致する92年コンセンサスを受け入れる」と回答した。この立場は、馬英九前総統が従来から主張する「中国は一つであるが、大陸と台湾の主張は異なり、台湾側の主張は、一つの中国とは中華民国である」という内容である。また、中国政府の主張する一国両制などの主張には反対することも合わせて指摘された。しかし、この馬前総統の主張は、民進党が「国民党は一つの中国を認めた」とし、中国の主張に迎合するかのような批判を加えてきたこともあり、侯氏は両岸関係の立場や論述を避けてきたが、ようやく、国民党路線に沿った両岸論述をしたことで、有識者は国民党支持者が侯氏支持で固まる契機になるとの指摘がなされた。

９日には、侯氏の大本営である新北市の活動で、前回の総統選挙で公務を理由に韓候補の選挙活動の応援に対し消極的であったことを公の場で初めて陳謝した。同発言を受け、韓元市長は「愛と包容が自分の変わらぬ信念である」とし、侯氏の発

言を受け入れた。国民党の党内団結に気をもむ立法委員などからは、歓迎の声が挙がった。

７月10日、黄健庭秘書長は、３月12日に郭氏と会食した際に、郭氏が自分に「今回の総統選挙は国民党が誰を公認候補にしようとも、自分は全力で支持する。目標は政権の奪回である」と語った。同発言に黄氏は感動し、郭氏に対し、「あなたは全力で党内予備選活動を行い、予備選で勝利したら、あなたが総統候補になり、侯氏は新北市長にとどまって市長職を全うする。もし、侯氏が勝利したら、党中央はあなたを立法委員選挙の比例区代表リストに推挙し、選挙では侯氏と他の立法委員候補の応援をし、国民党が選挙で勝利した際には、あなたは立法院長に就任すれば良い」と提案したと述べ、黄秘書長は郭氏が公認候補として指名されなかった場合の「Ｂ方案」としていたと強調した。同指摘に対して、郭陣営は黄秘書長と会見したことは認めたが、事実を歪曲していると批判し、郭氏も同発言には「心が痛む」として正式な会談や協議を行っていないと黄秘書長の発言を否定した。

黄秘書長の今回の「暴露」は、真相は闇の中とはいえ、予備選で敗退した郭氏が「自分が予備選で負けたら勝利した候補を応援する」という事前の承諾を守らず、独自に総統選への出馬を模索する郭氏を牽制し、党内関係者に党中央の正当性を訴えるものと世論は理解した。

国民党中央は23日に開催される全国代表大会まで、造反者が出ぬよう引き締めを図る一方で、侯陣営も19日から三日連続で台中、新北、桃園で数千人規模の活動を行い、団結を訴えた。こうした中で23日に開催された国民党全国代表大会では、党内で人気の高い韓氏のほか、盧秀燕台中市長のほか、朱立倫、馬総統、呉伯雄氏など新前旧主席が勢ぞろいし、壇上では韓氏と侯氏が包容するなど大団結を醸し出した。朱主席は正式に党の公認候補として侯氏の選出を宣言したが、会場では異議を唱えたり、臨時動議を提出する者もなく異論を抑えこむのに成功した。朱氏は、2024年の選挙で民進党政権を終わらせるためには、国民党の団結だけでなく野党全体の協力態勢が必要であり、執政後には平和、安定、正義の執政聯盟を確立する必要があるとして、他の野党にも協力を呼びかけた。侯氏は懸案の国民党全国代表大会を乗り切り、公認候補すげ替えの可能性が「暫時」排除されたことで、７-８月は「外遊」を通じて支持をアピールすることになった。

７月下旬、侯氏は国民党の総統候補としては、馬前総統以来16年ぶりに訪日し、日華議員懇談会のメンバー、自民党の麻生副総裁、萩生田政調会長らと会談した。またNHKなど日本メディアとのインタビューを積極的に受け、台日関係の重要性に幾度と言及したほか、中国との関係は馬前総統が主張した「統一しない、独立しない、武力行使しない」を提起し、中国との関係改善を通じて台湾がアジア太平洋地域の平和と安定に貢献できると力説した。また中国の主張する一国両制度には反対を強調し、「国民党は親中政党である」との印象を払拭しようという意思が感じられた。侯陣営によると、日本滞在中の３日間で36人の国会議員と会見した。

９月には江啓臣立法委員（元主席）ら関係者を帯同し訪米した。国民党の総統候補としての訪米は、2015年以来８年ぶりとなる。９月14日から７泊８日の日程で、ニューヨーク、ニュージャージー、ワシントン、サンフランシスコの４都市を訪問し、シンクタンクでの講演と有識者との意見交換、上下両院議員との会談、AIT本部訪問、米雑誌『フォーリン・アフェアーズ』誌への寄稿、華人組織との懇談及び宴会など積極的に活動した。米滞在中には、16名の国会議員と会見できたことを強調した。

米関係者との対話やインタビューでは両岸関係の平和に関し、寄稿文でも言及した「３Ｄ戦略」、deterrence（抑止）、dialogue（対話）、de-escalation（緊張とリスクの引き下げ）を重視し、責任ある態度で台湾を平和に導き、安定させ、実力で平和を確保し、交流を通じて理解を増進していくと強調した。侯氏は22日に帰国した際に、空港に出迎えた多数の支持者に対し、「米側は台湾海峡が不安定な状況で台湾自身が如何に戦争を避ける方策を講じるのかに関心があった。自分は中華民国の主権と独立を防衛し、平和的手段により両岸間の意見の相違を解決する」と述べるとこ

ろがあった。

９月25日から、侯氏は新北市長を有給休暇し総統選挙に本格的に投入している。台湾では公職を有する者が選挙に出馬することを禁じる関連法がないため、2015年の朱立倫、2019年の韓国瑜はそれぞれ、新北市長、高雄市長の身分のまま有給休暇をとり総統選挙に出馬しているが、いずれも落選している。民進党からは、「給料泥棒」、「施政投げ出し」との批判を展開しているが、侯陣営は、休暇に関し市民に陳謝するとともに有給部分は寄付し、施政に関しては、代理市長が職務を全うし、重大な事案があった際には、休暇中といえども「新北に問題が起これば、それは自分の事」だとして対応するとし、理解を求めた。一方で、民進党に対しては、「頼氏は副総統でありながら、休暇申請することもなく、公務よりも自分の選挙事務に没頭している」と批判するところがあった。

侯氏は一時期の支持率の低迷を脱し、外遊を通じて国民党総統候補の地位を確かなものにし、選挙戦最後の３か月を戦う体制が整った。

（3）民衆党　柯氏は存在感が埋没気味、周辺の不祥事もあり支持を伸ばせず

柯文哲氏は、以前から自身が総統に当選しても必ず連立政権になると明言している。同党のホームページでは、９月末の段階で原住民選挙区を含む選挙区の候補は79選挙区中11人しか擁立していないことから、総統選挙で勝利したとしても議会では他党の協力が不可欠になる。

７月10日には自身の支持者との交流会で、「自分が総統選に勝利しても、立法委員選挙では民進党、国民党、民衆党のいずれの政党も単独過半数が取れない可能性がある。その際に政局の安定のために民進党、国民党両党との協力の可能性は排除せず、行政院長は国会議席最大の政党から選出するのが良い」と言及した。同発言から、民衆党は仮に総統選挙で敗れても立法院では鍵となる少数の地位を確保し、国政に関与できると解釈したのは筆者の深読みだろうか。

７月16日、ひまわり学生運動を機に2015年に時代力量を立ち上げた結党メンバーの一人の黄国昌・元立法委員、著名インフルエンサー「館長」と呼ばれる陳之漢氏らが主導した「公平正義救台湾」活動は、炎天下の中、総統府前のケタガラン通りに２万人以上が集結し、司法改革や居住正義などのスローガンが叫ばれるなど事実上の反民進党政権の抗議活動となった。主催者側は、各政党の関係者に出席を要請したが、当日は民進党が全国大会を開催していたため、頼氏は欠席したが、他の総統三候補はいずれも出席し、それぞれが登壇し、演説では民進党政権を終わらせようと気勢をあげた。時代力量の王婉諭主席は登壇した際に柯氏がクリーンとは言い難い政治家と協力していることを批判したが、聴衆からは野次が飛ぶなど、同活動に集結した人々の多くは柯文哲、民衆党支持派が多かったことを伺わせた。

同活動につき親中派の『中国時報』は、「同活動は非民進党陣営が大集結したが、最後は柯文哲支持の大会になった」と論じた。民進党寄りの『自由時報』紙は、「侯、柯、郭氏は前後して登壇し演説したが、三人の間にはいかなる連携も無かった」と揶揄した。一方で、複数の世論調査では、民進党政権に対する不満度は40％を超えていることもあり、同活動には民進党政権に対する不満の一端が伺えた。

頼侯両名が「外遊」を通じて支持を固める一方で、柯氏は民衆党関係者のネガティブなニュースに苦慮した。８月14日、昨年の県市長選挙で唯一、同党公認で勝利した高虹安新竹市長が、立法委員時代の秘書の給与や残業代を騙し取った汚職嫌疑などの罪で元秘書らとともに台北地検に起訴された。検察によると約46万元が私的に流用されたと指摘している。高市長本人は記者会見で「政治的な裁判である」と自身の潔白を主張した。同事案は、昨年の県市長選挙の終盤から取り沙汰されてきた案件であったが、昨年の選挙では同情票が集まり、高氏は、民進党と国民党候補を退け勝利した。その後、９月下旬には一部の秘書らが罪を認める証言をしたとの報道がでている。関連規定によれば、首長が一審で有罪判決が出た場合は職務停止になる。

高市長は、職務停止を見越してか、副市長、局長など幹部人事を異動させたが、内部から高市長の恋人が新竹市施政に不当な影響力を行使しているとの告発が出るなどしたため、市民に対して陳

謝を強いられた。

同政党首長の「不祥事」は、総統選挙を争う柯氏には関係のないことかもしれないが、民進党や国民党とは違うクリーンなイメージを打ち出してきた同党の関係者が汚職疑惑で訴追されたり、施政も公私混同で混乱が引き起こされたのは、柯氏にとってダメージとなっている。

10月上旬、柯氏は米西岸の二都市、ロスアンゼルスとサンフランシスコを訪問した。同党は今回の訪問目的は「新科学技術、新教育、新経済の産業視察」としてシンクタンクや企業訪問を行ったほか、支持者との懇親会の日程をこなした。

（4）郭台銘氏　満を持しての出馬表明も支持は伸びず

６月末に、柯氏との接近、さらには資金力にものを言わせて、民衆党を丸ごと買収するようなきな臭い計画の噂もあったが、「郭柯会談」が急遽取り消されるなど協力関係が困難であることを示した。７月12日に、台東で国民党関係者の宴席があり、侯郭両名が円卓で同席した場面もあったが、双方で会話も無く冷え切った関係を印象付けた。一方、国民党内では侯氏の支持率が低迷していたこともあり、中央常務委員会で郭支持派が党の候補選出を再提案する動きもあった。

国民党全国代表大会開催後の27日には、党大老の王金平元立法院長が郭氏に出馬を思いとどまるよう説得したが成功しなかったなどの報道もされた。７月31日には、郭氏支持を明言していた謝典林・彰化県議長が国民党を離党した。

郭氏は８月９日に屏東県で「主流民意大聯盟」活動を開催、現場に２万人規模の動員、国民党の地方議員らが多数参加し、侯柯両名に対民進党連合を呼びかけたが不発に終わった。

８月28日、郭氏は記者会見を開催し総統選挙の出馬宣言を行い、無所属候補での登記要件を満たすための署名活動に入る意向を表明した。無所属候補が登記できる要件は、前述したように総有権者総数1.5％の約29万人の署名が必要である。郭氏は、「自分の出馬は野党陣営の整合を促すことにある。野党陣営は適当な方式により国民の期待に応えられる統一候補を選出し、政権交代を実現させるべきだ」と力説した。郭氏の出馬宣言を受け、国民党の蔣萬安台北市長、盧秀燕台中市長は、侯氏への支持を明言し郭氏の総統選出馬は正当性が無いと批判した。侯氏自身も「何も恐れず、前進あるのみ」と平静を装った。

『聯合報』は一面トップで、国民党陣営が「民進党は爆竹を鳴らして大喜びしているだろう」と揶揄した。民進党にとっては、野党の分裂による票の分散が予測されるので、頼候補にとって有利になるという見方である。実際に、台南選出の林俊憲立法委員はフェイスブックで「郭氏の総統選出馬の夢を叶えるために民進党の支持者は、署名活動を積極的にするようだ」と記したところ、党中央から直々に電話で郭氏の出馬についての行き過ぎた論述は批判を控えるようにとの指示があったと報じられた。郭氏の出馬は、野党にとっての主要敵である民進党の頼候補が有利になる可能性は高まるが、郭氏は出馬宣言の目的で「野党の団結と統一候補の選出を促す」とし、郭氏は自身の総統選出馬には拘泥しないとも述べており、侯柯郭の３人が話し合いを通じて候補者の一本化に成功すれば、民進党にとって脅威となるのは明白であり、自陣営には余計な言動を慎むよう通知したものと思われる。

９月14日、郭陣営は自身の副総統候補に女優の頼佩霞氏を指名し、署名活動へ乗り出すことを表明した。頼女史は、芸歴の長いベテラン女優であったが、筆者が７月号でも言及した台湾政治を題材にしたドラマ「人選之人—造浪者」（日本語名、WAVE MAKERS～選挙の人々～）で総統選挙に出馬し当選することになる総統役の「林月真」役を演じ、若者世代にも一気に知名度が広がった人物である。郭陣営の黄土修報道官は、郭氏の出馬は野党の団結が目的であり、副総統候補の人選に関しては、野党統一候補が促がされた場合は随時選挙を止めるという条件を受け入れられる人物が考慮されたと説明した。なお、頼女史は米国籍を有しているため、現行の関連法規に抵触しないように正式な総統副総統選挙の登記最終日である11月24日前に、米国籍を放棄する必要があると報じられている。

郭陣営の署名活動は、９月20日から全国で一斉に開始され、10月６日には総統選挙への届け出に必要とされる30万人分の署名は突破したが、活動は11月まで継続するとしている。

（５）総統選挙の世論調査

郭氏が出馬表明をし、正式な出馬に必要な署名活動を開始した直後に台湾メディアは一斉に、次期総統候補の支持率調査を行った。シンクタンク台湾民意基金会、有線テレビのTVBSの調査結果は、いずれも賴氏がトップを堅持し、柯文哲氏が２番手、侯友宜氏は柯氏に肉薄している。郭氏は10％前後の支持しか得ておらず三者の後塵を拝している。

賴氏の支持率はこの２社以外の調査でも概ね30％を越えており安定しているが、８月に「寝そべったままでも勝てる」と揶揄された当時の状態からは若干下落したほか、民進党政権に不満を示す有権者は一定数存在しており、警鐘を鳴らす形となっている。一方、国民党の侯氏は党内基盤を固め、外遊も無難にこなし最大野党の候補らしい戦いができる態勢が整ってきた。民衆党の柯氏は民進党、国民党の二大政党に挟まれる中で、存在感が示しずらくなり、支持は伸び悩んでいる。最後に名乗りをあげた郭氏は、署名活動の段階で在野整合と団結の気運が盛り上がり、自身がその在野連合の主役となるのが狙いなのかもしれないが、10月上旬の段階では「郭台銘ブーム」的な大波が起きている感じはしない。

（６）聯合報の世論調査と立法委員選挙の動向

９月27日、『聯合報』は次期選挙の世論調査結果を公表した。総統選挙の支持率は、３人対決時の賴30柯21侯20、４人対決時の場合は賴28柯20侯18郭10となり他社調査と大同小異であった。

誘導的な質問ではあるが、次期選挙で「民進党を政権の座から引きずり下ろしたいか」の設問では、「思う」45％が「思わない」37％を上回り、「野党が非民進党陣営で整合すること」に「希望する」41％が「希望しない」33％を上回ったのは、郭陣営の行動に根拠を与え、民進党の警戒感を示すものとなった。

同調査では立法委員選挙の支持率調査も公表された。調査は、選挙区（小選挙区73、原住民選挙区６）と比例区（34）に分けて行われた。台湾の議会選挙は小選挙区比例代表並立制が採用され、小選挙区候補（原住民の有権者は中選挙区で実施される原住民籍候補に投票）と政党に投票す

表１　台湾民意基金会の次期総統候補支持率調査

候　補	5 月 16 日	6 月 20 日	7 月 25 日	8 月 22 日	9 月 26 日
賴清德	35.8%	36.5%	36.4%	43.4%	31.4%
侯友宜	27.6%	20.4%	20.2%	13.6%	15.7%
柯文哲	25.1%	29.1%	27.8%	26.6%	23.1%
郭台銘	-	-	-	-	10.5%

資料元：台湾民意基金会、2023年９月「進口雞蛋風暴、政黨競爭與2024總統大選」、2023年９月26日、https://www.tpof.org/%E7%B2%BE%E9%81%B8%E6%96%87%E7%AB%A0/2023%E5%B9%B4%EF%BC%99%E6%9C%88%E3%80%8C%E9%80%B2%E5%8F%A3%E9%9B%9E%E8%9B%8B%E9%A2%A8%E6%9A%B4%E3%80%81%E6%94%BF%E9%BB%A8%E7%AB%B6%E7%88%AD%E8%88%872024%E7%B8%BD%E7%B5%B1%E5%A4%A7%E9%81%B8%E3%80%8D/

表２　TVBSの次期総統候補支持率調査

候　補	5/17-18	6/14-16	7/24-26	8/21-24	8/28-9/1	9/22-26
賴清德	27%	30%	33%	37%	30%	34%
侯友宜	30%	23%	25%	22%	19%	21%
柯文哲	23%	33%	32%	28%	23%	22%
郭台銘	-	-	-	-	14%	9%

資料元：訪問主題：侯友宜訪美後，2024總統大選支持度調査、TVBS民意調査中心、2023年９月26日、https://cc.tvbs.com.tw/portal/file/poll_center/2023/20230927/518943da5f6eb5be3348778a7ca32727.pdf

るが、同調査では選挙区、比例区のいずれも、国民党が民進党をリードする結果となった。なお、現在の各党の議席数（総議席113）の内訳は、民進党62国民党37民衆党５時代力量３無所属５欠員１である。

同調査結果から見えてくるのは、民進党は総統選での優勢が、立法委員選挙には反映していない現状である。野党寄りの『聯合報』による調査であることは留意する必要があるが、筆者の周囲の民進党関係者も恐らく内部の調査結果でも類似の結果が出ているようで異口同音で「単独過半数議席の確保は厳しい」というぼやきを耳にしている。

民進党が議会選挙で伸び悩んでいる背景には、総統選挙で頼候補を支持する有権者でも、立法委員の選挙区は政党よりも人物本位で選び、比例区は民進党以外に投票という「分裂投票」の傾向のある有権者少なからずいることにある。総統選挙は、対外関係の基本路線において蔡英文路線を継続する（しそうな）頼氏に投票するにしても、民進党の権力が巨大になりすぎるのをを牽制するには、立法院では与野党勢力が拮抗した方が良いという雰囲気がある。

2018年、2022年の統一地方選挙で民進党はいずれも惨敗したが、この結果も傲慢な民進党政権に対して、肘鉄を食らわしたとは言わぬまでも、投票を棄権し民進党に消極的な抗議の意を示した有権者が多かったように思う。

台湾の比例区選挙は、「拘束名簿式比例代表制」が採用され、当選者は各政党が提出した名簿の順位から当選していく。また、政党の得票率は５％以上無いと議席は獲得できず、大政党に有利なデザインである。この比例区名簿をめぐる各党の争いは、通常は党主席を中心とした党執行部の意向と党内勢力のバランスに配慮したものになるが、前回の選挙では国民党の比例区名簿が当時の主席の呉敦義氏や急進統一派的立場の有識者が上位名簿に入ったことで、党内の青年層の一部が党中央に抗議を行うなど、不評を買い、呉氏は自分の名簿順位を下げるなど若干の調整を行った（呉氏は落選した）。民進党においても同名簿をめぐる暗闘が繰り広げられるのは必至であり、各政党は比例区票の拡大のために耳目を一新するような名簿を出せるかが、注目である。

表３　次期立法委員の支持政党調査

	選挙区	比例区
民進党	22%	25%
国民党	26%	30%
民衆党	5%	10%
他の政党及び政治団体	2%	4%
無所属候補	3%	-
投票しない / 未決定	44%	31%

資料元：聯合報、2024大選　本報最新民調、2023年９月27日、４ページ。

２．日台関係

（１）要人往来関連

７月４日、国会議長に相当する游錫堃立法院長が超党派の立法委員や林姿妙宜蘭県長らを帯同し、宜蘭県蘇澳鎮からフェリーで日本最西端の島である与那国町を訪問し、帰路は古屋圭司・日華議員懇談会会長とともに日帰りで同フェリーで台湾に戻った。

与那国島と宜蘭県は直線距離で約110キロの距離であり、好天時には与那国から台湾を見ることができるとされている。（余談になるが、筆者は1988年夏にツーリングの際に同島に数泊したが、同島から台湾を目視することはできなかった。）

游院長は今回の船旅について、観光視察、直航便の試験運行、国会外交の３つの意義があると強調した。台湾メディアは同船者の90名の内、約40名が観光業界の関係者と報じた。与那国から宜蘭の復路便に同乗した古屋会長は日台間の協力強化の必要性を強調した。

７月中旬、安倍元首相の死から１年を機に台湾の民間団体の招聘により安倍昭恵夫人が訪台した。安倍夫人は、台南市で開催された「安倍晋三写真展」を視察したほか、高雄市の寺廟「紅毛港保安堂」を訪れ、同寺廟が設置した安倍元総理の銅像に献花した。同場所は昨年、安倍派の議員団も訪問するなど一部の人々にとっては「聖地化」している。また、台北では安倍氏が生前望んでいたが叶わなかった李登輝元総統の墓参も行った。台湾政府も安倍夫人を厚遇し、蔡総統、頼副総統が、会見した。蔡総統は、安倍元総理の台日関係

発展への貢献を高く評価した。頼副総統は、総統府での会見のほか、民間団体が主催した音楽会にも出席し、安倍氏を偲ぶところがあった。

８月上旬、麻生太郎元総理がシンクタンクの招聘で訪台し、シンポジウムでの講演のほか、蔡総統、頼副総統と会談した。麻生氏は講演で、「日米台は戦争の覚悟が必要である」、「抑止力の強化が重要な課題である」などと主張し、関連発言は台湾メディアでも大きく取り上げられた。

９月12日、岸田内閣は内閣改造を行った。台湾では日華議員懇談会の事務局長を務める木原稔議員が防衛相に就任し、「親中派」とみなされた林芳正外相が退任したことに注目する報道が散見された。

（２）日台自治体交流

中央政府レベルの要人と同様に、地方自治体間の交流も活発に展開している。筆者は幸運にも自治体交流の枠組みが形成される現場を目にすることができた。

７月中旬、山口県の村岡嗣政知事は、県職員及び同県超党派の県議会議員12名を帯同し、新竹、台南、台北を訪問した。新竹市では、市議会で日本と縁の深い市議らと懇談し、議場を視察したほか、市政府関係者とは高虹安市長との会談、事務レベルでは製造業を中心とした産業交流についての可能性などにつき意見交換を行った。同訪問団のハイライトとなった台南市では、黄偉哲台南市長と村岡知事の同席下に観光・物産、経済、青少年分野における協力と交流を推進する覚書を締結した。また、同市では前述の「安倍晋三写真展」の開幕式に台南市選出の立法委員らと出席したほか、山口県の魅力を紹介するイベントを開催し、知事自らが同県産品をアピールした。台北では、日本でも知名度の高い唐鳳・デジタル発展大臣と地方行政におけるデジタル・トランスフォーメーションなどの議題につき意見交換を行った。

（３）福島第一原発事故処理水放出への反応

８月24日、日本政府は福島第一原発の処理水の放出を開始したが、中国政府は猛烈に反発し、即日から日本産水産物の禁輸を公告するなどの「報復」措置を採ったが、台湾政府は主管機関の農業部漁業署長が、「日本政府が処理水の放出を表明した直後から外交部を通じて日本政府に反対意見を表明するとともに今年から日本産水産品の検査を強化している」と説明したが、禁輸などの強硬的な措置は採っていない。

外交部報道官は、「国際的な基準に合致する形で処理水の放出を行うよう、促していく」と述べたほか、次期総統候補も概ね「科学的根拠に基づいて対応する」、「情報のさらなる公開を求める」などと呼びかけ冷静な対応をしている。

台湾世論の反応としては、台湾民意基金会が９月に調査した結果は、「処理水（原文は『核廃水』）の放出が海洋汚染を引き起こすことに心配か」の設問で「心配だ」63.8％が「心配しない」の31.9％を大きく上回った。また、中国の禁輸措置に対しても、「合理的だ」50.4％が「非合理的ではない」34.5％を上回る結果となり中国政府の対応に一定の理解を示す結果になった。

台湾では「アルプス処理水」が「核廃水」、「核処理水」などと表記されることが多く「核」を強調することで、ネガティブなイメージを強く想起させている面があるとはいえ、台湾でも中国の影響を受けてか、食用塩の購買量が一時的に激増するなど、心配しているのは事実であり、日本政府は引き続き積極的な情報発信と丁寧な説明をすることが求められる。

ジュディ・オングさん　版画展「無限Ⅱ　倩玉的版画世界」インタビュー

日本台湾交流協会は、令和５年度の文化事業として、令和５年11月18日から12月17日の期間、台南市美術館主催のジュディ･オングさんの版画展「無限Ⅱ　倩玉的版画世界」を共催します。開催に先駆けて、ジュディさんに、11年ぶりとなる台湾での版画展開催に向けた意気込みや日台関係への想いをインタビューしました。

©SHOJI MOROZUMI

ジュディ・オングさん略歴

歌手・女優・木版画家
台湾生まれ。３歳で来日し、女優として11歳の時、日米合作映画「大津波」でデビュー。
歌手デビューは16歳、数々のヒットを飛ばし、1979年には「魅せられて」が200万枚の大ヒット、日本レコード大賞他を多数受賞。25歳で始めた木版画はプロフェッショナルとなり、2005年「紅楼依緑」が日展特選を受賞。これまでに14回の日展入選を果たし国内外で個展を開催中。現在、開発途上国の子供たちを支援するワールドビジョン・ジャパンの親善大使の他、ポリオ撲滅大使、日本介助犬協会介助犬サポート大使を務めている。

ジュディさんと日台交流

――ジュディさんは、昨年（2022）、日本で文化庁長官表彰と外務大臣表彰をダブル受賞されました。特に外務大臣表彰では歌手・女優としてお忙しい日々を過ごされる傍ら、1999年の台湾中部大地震や2011年の東日本大震災の際には多数の慈善活動をされ、木版画を通じて日本の風景美を広く伝えて日台間の文化交流や友好親善の推進、相互理解の促進に大きく貢献されたことが表彰の理由でした。

これまでのご自身の日台交流への取り組みやチャリティー活動を振り返られ、今後の日台交流の展望はどのように描かれ、またどのように参加なさりたいですか？

ジュディ・オングさん　参加の仕方は色々あるかと思いますが、私にとって台湾は生みの親で、日本は育ての親なので、両方の親が仲良くしてくれることが一番幸せであり、そうであってほしいという願いがすごく深いです。大変な時は、お互いに手を差し出して助け合う関係です。阪神大震災の時、台湾から多くの援助が差し伸べられましたし、台湾中部大地震の時は、日本からの支援が沢山届けられました。そして、東日本大震災の時に台湾に助けを求めに行ったら、本当に多くの人が助けに来てくれました。あの時の感覚は、なんと言うのでしょう、兄弟が大変だ、という感覚だったとみんなが言うのです。大好きな日本が大変だ、と。その気持ちがあのチャリティーに現れていましたね。後日台湾に行きましたら、すごく楽しそうに、嬉しそうに、

「恩返しに来ちゃいました！」という日本の若者にいっぱい会いまして、「あの時はありがとうございました！」ってお礼を言われましてね。私、しどろもどろしちゃいました。

でも、日本と台湾のこの心の交流は、私の母が子供時代に、日本人のお友達と手に手を取って学校に行って一緒にお勉強をして、学校が終わってからは一緒に遊んで、という仲良しだった思い出が私たちの年代に伝わって、そこからまた次の世代に上手に繋がっているのですよね。だから、これをこのまま、もっともっと持続させて、この仲良しがいずれは世界平和に繋がっていくようにしたいと。そのお役に立てることが、私が生涯続けていきたいことだと思います。

――元々台湾の方々が抱いていた日本への想いもあったのだとは思いますが、ジュディさんが先頭を切ってチャリティーイベントのお声がけをしてくださったからこそ、あれほどの大きな支援活動に繋がったのではないかと感じています。今後もぜひ、日本と台湾の仲良しの度合いを深めていただけるとありがたいと思います。あの時の台湾の方の寄付の仕方は日本人のものとは違いましたね。

ジュディ・オングさん　本当にね、自分のお給料全部寄付してくださったとか。ちっちゃい子も、何かを買おうと思って貯めていたお金を全部もってきてくれて。企業の人も、「え、こんなに出してくださるの？」っていう感じで、とても嬉しかったです。

私はちょうど版画展が終わったばかりで、作品を全部持って帰ってきていたところだったので、それをチャリティーオークションに持っていこうと思っていましたら、当時の馮寄台駐日代表が、「ほんと？」って聞かれたのです。「持ってきます。売れたら全額寄付しますから」って答えたら、その後、どなたかがとんでもない値段で買ってくださったんです。もちろん、私の作品は寄付をするための１つのきっかけとしてそこに存在しただけだと思うのですが、そうした皆さんの心が素晴らしかったですね。

台湾でのチャリティーオークションは２日間で２つ行いましたが、当時、私の部屋は管制塔のようになって、どんどん寄附の電話が入ってきました。中でも、台湾ファストファッションのNET社の黄文貞社長からは、「被災地は寒いから、３万着のフリースを届けたい」とお申し出いただいて、台湾中のショップの店頭に並んでいたものをかき集めて寄付してくださったんです。１つ１つのお店が自分の店にあったフリースを箱詰めして送ってくださったんですよ。

でも、３万着なんて、どうやって東京まで持って行くのか途方にくれていましたが、エバーグリーンの張榮發会長に相談してみようと思いました。それで電話したら、張会長は、「今、日本は大変だから、船を出してあげる」とおっしゃって、コンテナを１つ提供してくれたんです。「じゃあ港まではどうやって運ぼうか」と言ったら、今度は私が親善大使を務めさせていただいている国際協力NGOワールドビジョン・台湾がトラックで何回も何回も運んでくれて。東京でもそれを受けた国際協力NGOワールドビジョン・ジャパンが被災地に運んでくれました。

版画展の開催経緯

――さて、そのチャリティーオークションにも出していただいたジュディさんの木版画ですが、台湾でもとても有名で、2012年に台北の国立国父記念館と高雄の高雄市文化中心で個展を開催された時も大変な話題でした。今回の開催地の台南は、ジュディさんにとって大変ゆかりの深い土地とのことですが、どのようなご縁と経緯があって今回の開催が決まったのでしょうか？

ジュディ・オングさん　ありがとうございます。私の版画の台湾における師匠であり、お友達でもある廖修平先生から、「ジュディちゃん、あなたの故郷でやらない？」とご提案をいただき、

台南市美術館からお声をかけていただいたのです。台南は私の故郷で、父も母も台南出身です。来年は鄭成功の生誕400年と安平城築城400年ということで、台南の皆様がとても大切にしている年にあたりますが、実は、私の両親の先祖は、鄭成功と一緒に台湾に来たのです。父方は鄭成功の軍医として台湾に入り、ずっと医者の家系でした。母方の先祖は、鄭成功に仕えた武将の一人でした。南京の戦いの時に命を落としまして、鄭成功がその孤児たちを「一緒に台湾行こう」と腕に抱えて台湾に連れてきて、鄭家が後の台南「柳営」の領主となりました。母で10代目、私が11代目になります。父の方では17代目です。

そういう訳で、私の版画展が来年の台南400年のプレイベントみたいになれば一番いいなと思っています。

ジュディさんと版画の出会い

――台湾で生まれ、日本で育ち、小学生の時に芸能界入りされてから、世界を舞台にずっとお忙しく活躍されているジュディさんですが、日本の木版画に魅せられて、25歳から本格的に木版画に取り組まれているとのこと。当時のジュディさんにとって木版画にはどのような魅力があったのでしょうか？

ジュディ・オングさん　絵は元々好きで、小学校の頃からいっぱい描いていました。水彩をやり、その後油絵を描くうち、友達から「白黒の版画を見に行かない？」と誘われたのです。「白黒の版画」って言われて、とても民芸調のものを想像して行きましたら、それが超モダンな、白いバックに黒いポピーと、黒いバックに白いポピーが対になって掛かっていて、まるでハリウッド女優さんのお部屋のソファーの後ろに飾ってあるようなモダンな作品だったんです。それにある種のショックというか、感動を受けまして。

その版画を作られたのは、棟方志功先生のお弟子さんの井上勝江先生だったのですが、私はすぐにその場にいらした井上先生に、「私、版画始めたいんですけど」って言いました。井上先生が、「あら、ジュディ・オングさん？」ってお聞きになるので、「はい！」と答えましたら、「いや、無理よ～」って言われましてね。

彼女はおそらくお芝居して、歌を歌って、司会をして、普通の生活をする時間もないような中でどうやって版画をやるの？っていうお気持ちがあったと思うのですが、でも、そう言われると、余計やりたいじゃないですか。それで家に帰って、兄から板の破片をもらって、小学生の時に使っていた彫刻刀を出してきて椿の絵を描いて。もう見よう見まねで一所懸命彫って、バレンなんかないですから、スリッパで刷った作品を井上先生の所に持っていきました。そうしたら先生、それを見て、「んーっ」って考えこんじゃって。

その時ちょうど彫刻家の長沼孝三先生がいらしていて、「勝江ちゃん、その子続きそうじゃない？見てみなよ、あの掘り方。きっと頑固だよ～。」とかおっしゃったんです。それで井上先生から「そうね。それじゃあ、土曜日からいらっしゃい。」ってご許可をいただいて始めたのが25歳でした。

©HEEMORY
椿（小・処女作）

それからは仕事のない土曜日には毎週、先生のところに通って教わりました。絵を描いて、板に反転して、彫って、彫刻刀の使い方を教わりました。作品は小さいものから始めましたが、ある時先生が、「大きいの、やってみたら」っておっしゃったのです。「やってみなきゃわからない、人生は挑戦、やってみよう」と思い、日本板画院展に50号の作品「店蔵（みせぐら）」を出展しましたら、それが入選しちゃって。大騒ぎになって、それで火がついて、もう版画が面白くて、面白くて。どんどんいろいろなことに挑戦するようになったんです。

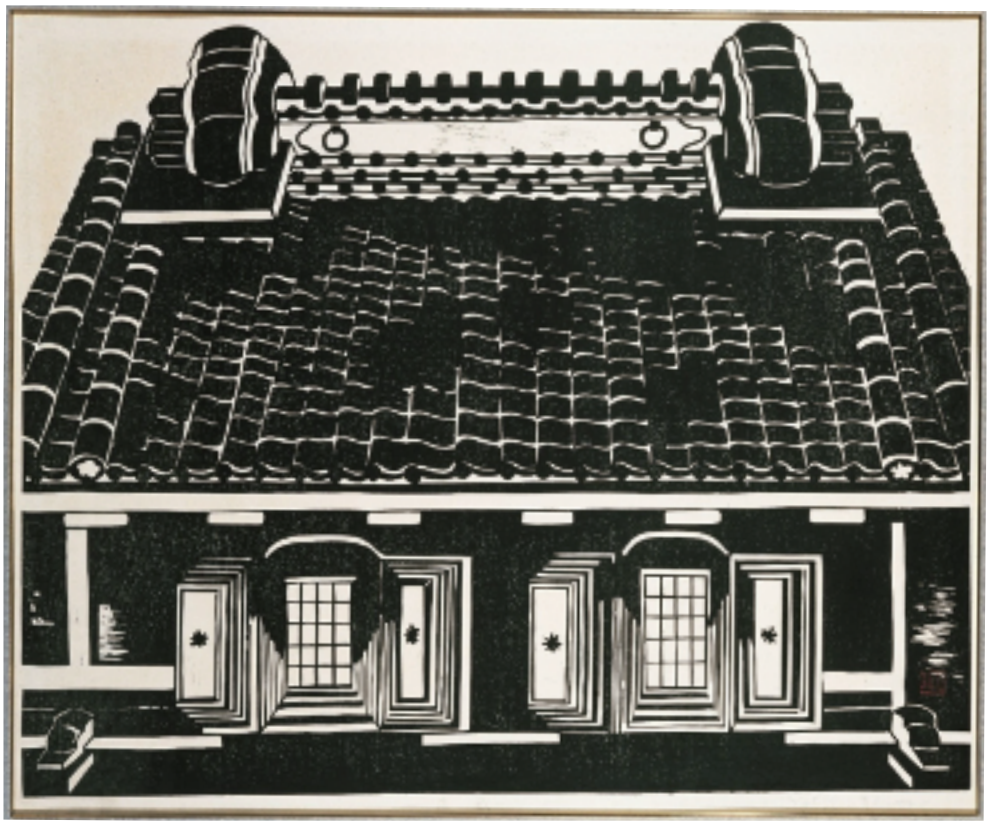
――ジュディさんの作品の題材は、お花と建物が多いですね。

ジュディ・オングさん　私の兄の翁祖模は建築家なので、どこかで繋がっているのだと思いますね。兄の作った高雄市の流行音楽中心の建物は最近のBRUTUS誌2023年５月号の台湾特集のトップでも紹介されたように、今は高雄のアイコンとしてクローズアップされていて、それを見に高雄に旅行される方もたくさんおられるそうなのですよ。

ただ私自身はというと、特に日本家屋に思い入れがあります。「めいめいちゃん」と呼ばれていた子供時代に、お隣のお友達の家の、床の間のある畳のお部屋で、ちゃぶ台でおせんべいとジュースをごちそうになった時のような楽しくて懐かしい、いい思い出がたくさんあります。

その後は京都で時代劇を撮影しながら、日本家屋に囲まれているうちに、ますますもって「日本家屋って素敵ね」と思うようになっていた時に版画を始めたので、大きい作品は、柱がしっかり立っていて、甍が綺麗に積まれた日本家屋がいいなって。私の性格にピッタリですよね。

そのうちに日本家屋がもっともっと好きになりまして、日本家屋の設計をなさる先生方にご案内いただいて京都の「清流亭」を見に行き「雨過苔清（うかたいせい）」を制作しました。



©HEEMORY

「店蔵」

©HEEMORY

「雨過苔清」

――この作品を初めて見た時、版画と思えなかったです。透明感があって、シーンとした中に爽やかな風を感じるといいますか。

ジュディ・オングさん　ありがとうございます。すごく考えて作った作品です。スケッチに行って、写真をたくさん撮って、まだ記憶が新しいうちに急いで下絵を描きました。この時は６月で、ちょうど部屋のふすまを全部取り払って、透明な御簾にかけ替える時期だったんです。御簾にすることによって見た目の涼しさを出すというのは、四季を楽しむ日本文化の素晴らしいところですが、それを見た時に、「うわぁなんて涼しい！」と感じました。実際には風が来ていないのに、風が来ている気持ちになった様子を描きたいと思ったんです。ちょうど部屋に入ってきた目線で、部屋の中の塗りの机に庭が映っているのが、また涼しそうに見えました。

油絵にも、水彩画にも、日本画にもいろいろな表現方法がありますが、本当は版画って平面が多いんです。遠近とか立体といった表現がないのですよ。でも私、「どうして？いいじゃないですか別に」って思って、私なりの描き方をするようになったところから作品が変わりましたね。

版画展のみどころ

――今回の展示作品の鑑賞ポイントを教えて下さい。

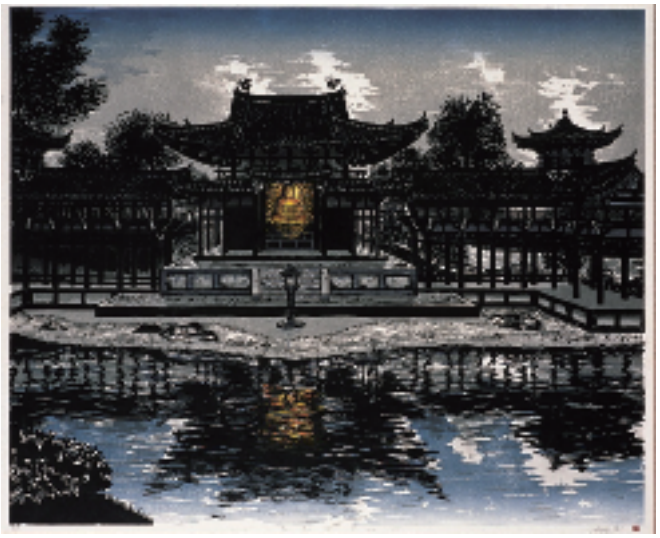
ジュディ・オングさん　私は、台湾の風景ももちろん描いているのですが、やはり長く日本にいるので、京都や名古屋等日本の綺麗なところを色々描いています。私の版画は、白黒の作品から始まって、影になるグレーに出会ってから、絵がパッと変わります。その後、ちょっと色を入れてみたくなりました。でも、全部の色を入れるのではないのです。あくまでも白黒が主体で、そこに最少の色だけを使って、どうやって見る人に最大の色･全ての色を見てもらうかが、私の今日に至るまでの挑戦なのです。

それに、昨日と同じことはやりたくないとい

う思いがありまして。ある日、反射というものに目覚めました。名古屋にある古川爲三郎記念館には、素晴らしい数寄屋造りの大きなガラス戸があります。そこに反射したお庭が映っていて、その反射によって、ひとつの空間ができていたのです。これを表現したいと思いまして、どうやって表現しようか、だいぶ考えました。それが「華堂初夏（かどうしょか）」という作品です。その次には艶やかな反射というものを表現したくなりました。水の表現です。それが平等院を描いた「鳳凰迎祥（ほうおうげいしょう）」という作品になります。建物が前の庭に池に映っ

©HEEMORY

「華堂初夏」



©HEEMORY

「鳳凰迎祥」

©HEEMORY

「紅楼依緑」

て揺れているのが風（の表現）になるのです。こうした反射を利用して、揺れた水面で風、雰囲気や香り等を表現したいと思って描きました。

日展で特選をいただいた作品の「紅楼依緑（こうろういりょく）」で描いた反射は、打ち水です。お客様をお迎えするために打ち水をした黒い石を表現するのは反射しかないんです。ここでは黄色のランタンが下に反射していることによって、打ち水をしたところを表現しました。

こうした表現方法によって、日本文化の作品の中に自分が入っていく、色々な意味での空想の日本の旅をしていただけるようにしたいと思っています。

――日本に観光に来られてこういう家屋を見たことのある台湾の方は、多分、あーっ！日本で出会った景色だ、と思われるでしょうし、この作品を見て日本に行ってみたい、と思う方がたくさん現れることを期待しております。また、ジュディさんが表現された版画にある原風景を我々日本人がちゃんと残していかないといけないと強く思いました。

ジュディ・オングさん　ありがとうございます。私も日本家屋という美しい芸術がこれからも残り続けることを切に祈っております。今回の版画展はこれまで展示した作品の他にも新しい作品もあります。

それから、今回は１つ面白い企画があるのですが、私の作品を着物にしました。台湾で初めて皆さんに見ていただきます。私の版画は着物になるっておっしゃった京都の着物会社の方にご提案いただいて、絹の布地にロウケツ染めで何度も何度も染めて作り上げた「鳳凰迎祥（ほうおうげいしょう）」と「紅楼依緑（こうろういりょく）」の着物を展示します。初めての方にも、もう一度見たいと言って下さる方にも楽しんでいただけると思います。

――それはとても楽しみです。11月18日からの展示会、ご成功を心からお祈りしております。本日はありがとうございました。

ジュディ・オングさんの版画展、「無限Ⅱ　倩玉的版画世界」の参観にあたっての詳細情報は以下のとおりです。たくさんの方のご来場をお待ちしております。

期　間：2023年11月18日（土）～12月17日（日）
会　場：台南市美術館　１館　展示室Ａ＋　ワークショップ（台南市中西区南門路37号）
入場料：無料
関連サイト：URL「無限II 倩玉的版画世界」台南市美術館１館 告知映像― YouTube
https://www.youtube.com/watch?v=RMQZWdcIR2Q

片倉佳史の台湾歴史紀行　第二十五回

台湾縦貫鉄道を誌上体験　その４（新竹～台中）

武蔵野大学客員教授
台湾在住作家　片倉　佳史

台湾島の南北を結ぶ縦貫鉄道は基隆（きいるん）と高雄（旧称･打狗）間の408.5キロを走る一大幹線。現在もなお、台湾社会を力強く支えている。その縦貫鉄道を「誌上体験」し、日本統治時代の台湾をたどる旅。第４回の今回は新竹から台中までを旅してみたい。

台湾北西部の中枢・新竹市

新竹（しんちく）市は人口約45万５千人を誇り、台湾北西部の要となっている。「風城（風の町）」とも呼ばれ、山地から吹き降ろす冷風を生かした米粉（ビーフン）が名物となっている。新竹については、当連載の第12回（『交流936号』）、13回（『交流938号』）で詳述しているので、そちらを参照されたい。

竹北駅を出た列車が頭前溪の橋梁を過ぎると、間もなく新竹に到着する。日本統治時代は新竹駅の構内に入る手前､右手前方に高い煙突が見えた。これは帝国製糖株式会社の製糖工場で、台湾北部最大の規模を誇った。戦後は中華民国国民党政府に接収され、台湾糖業公司の管轄下に入ったが、1952年10月30日をもって操業を停止し、解体された。現在、跡地は「遠東巨城購物中心」というショッピングモールになっている。

この街のシンボルとなっている新竹駅の駅舎は1913（大正２）年３月31日に竣工したもので、ドイツ風バロックと呼ばれる珍しい様式。直線を多用し、やや「いかつさ」を感じさせる建物である。設計を担ったのは日本へ最初にドイツ建築を持ち込んだ松ヶ崎萬長(まつがさきつむなが)だった。現在、周辺エリアと合わせて景観整備の対象となっており、その手法が模索されている。

新竹駅を出た列車は市街地を貫くように走る。客雅渓という川を渡った後、中山路という道路と交差する。この道路はかつての新竹神社の参道である。左手には牛埔山と呼ばれる小高い山があり、新竹神社はその中腹に鎮座していた。また、この道を右に進めば、新竹州庁舎（現・新竹市政府）に繋がっていた。

通勤・通学客の利便性を図って設けられた三姓橋駅は2016年６月29日に開業した新しい駅。現在、在来線を運営する台湾鉄路管理局では、台湾高速鉄路（台湾高鉄）の開業を受け、各地で短距離､中距離輸送ネットワークの拡充を進めている。そのため、各地でこういった新しい駅が誕生している。ここも駅は簡素ながら、利用客は多い。

この先で列車は大きく左にカーブする。この辺りはすでに海に近いが、車窓には大海原を見ることはできない。それは防風林があるためで、日本統治時代に植樹されたものである。

新竹駅は現在、駅舎と周辺地域と連動させた再開発計画が進められている。

香山～日本統治時代の木造駅舎

続く香山駅は木造駅舎が今も残る。現在の駅舎は1927（昭和２）年７月８日に竣工したもので、保存状態は良好だ。当時の地方駅によく見られたスタイルで、駅務室と仮眠室、そして待合室で構成されている（詳しくは連載第13回を参照）。

香山から崎頂（きちょう）にかけての沿岸部は遠浅が続き、これを用いた牡蠣の養殖が行なわれ、大部分は新竹や台北に送られていた。また、海水浴場も設けられていたが、これらはいずれも過去の風景となっている。

香山から崎頂までの区間は海岸沿いを走る。木麻黄（もくまおう）や南洋から持ち込まれたダルベルギアシッソなどの樹が植えられ、防砂・防風林となっていた。海上から吹き付ける風は強く、多くの田畑が埋没したといい、塩害も深刻だったため、防砂林は不可欠とされていた。

この辺りでも帝国製糖株式会社の農園が広がっていた。言うまでもなく、サトウキビの栽培地である。戦時中に廃止された内湖ガソリンカー停留所を通過すると、鹽水溪（旧称･内湖溪）を渡る。その後、列車は防風・防砂林の中を走る。

香山は日本統治時代の木造駅舎が現役。夕暮れ後は昼間とは異なる情緒を醸し出す。

崎頂～農業学校に設けられた神社の遺跡

崎頂（きちょう）に着く。ここは日本統治時代、海水浴場として知られ、多くの行楽客が訪れる場所だった。ホームから歩いて浜辺に出られるということで、旅行案内にも必ず名前が登場していたが、現在は見る影もない。駅も無人化されており、駅舎も撤去されている。

この崎頂付近は線路の付け替えが何度かなされ、ルート変更も実施されている。駅の近くにも使用されなくなったトンネル群が残り、長らく放置された状態だったが、現在は「崎頂隧道文化公園」の名で整備されている。特に観光地らしいものはないが、トンネル群は独特な景観を誇っており、サイクリングや散策を楽しむ人が訪れている。

崎頂駅は海岸に近い平地にあるが、その西側にはなだらか丘陵地帯が広がっている。ここには新竹州立農業伝習所があった。この学校は1933（昭和８）年に設立された実業学校で、当時、本島人と呼ばれていた漢人系住民の子弟を対象に一年間、実務的な農業指導を行なっていた。

この時期、台湾総督府は実業教育に力を入れており、皇民化運動とも連動させ、「国民精神」の修養をもくろんでいた。学校は1940（昭和15）年に新竹州立農士訓練所と改名し、二年後に近隣の頭份（とうふん）に移転した。

学校は牧場を併設しており、現在もこの一帯には小規模ながら畜産農家が点在する。学校の痕跡は残っていないが、敷地は中華民国政府農業部の獣医研究所（旧動物用薬品検品分所）が管理している。

その中に日本統治時代に建てられた神社の遺跡が残る。ここは崎頂神社といい、「日出神社」の呼称で親しまれていた。祭神には天照皇大神（あまてらすおおみかみ）、豊受大神（とようけのおおかみ）、北白川宮能久（きたしらかわのみやよしひさ）親王を祀っていた。

現在も長く続く参道と石灯籠、そして、本殿の台座が残っている。どこまでが神苑だったのかは判断ができないが、牧場を擁していたため、敷地は広く、ガジュマルをはじめとする植物が繁茂している。

神社創建は学校が設けられた翌年の1934（昭和９）年と言われている。現在、本殿跡には地蔵王菩薩が安置されている。訪れる人もなく、その存在を知る人も多くない。まさに、「忘れられた遺構」となっている。

崎頂神社跡地。知られざる神社遺跡となっている。繁茂したガジュマルに覆われたようになっている。

竹南～交通の要衝

竹南（ちくなん）は台中線（山線）と海岸線（海線）の分岐駅である。構内は広く、島式ホーム三本を有する。運転上の拠点として機能しており、ここを始発とする列車もある。駅の開設は1902（明治35）年８月10日。当時の駅名は中港（ちゅうこう）だった。竹南となったのは、1920（大正９）年10月の地名改正の時だった。

この辺りは竹南平野と呼ばれ、田園風景が広がっている。日本統治時代、竹南には南日本製糖株式会社が設けた製糖工場があった（のちに帝国製糖、大日本製糖に吸収合併される）。サトウキビの栽培地として拓かれたが、戦時期を経て、製糖産業は国際競争力を失った。台湾のサトウキビの栽培は生産効率の高い中南部を残して廃せられ、一面に広がっていたというサトウキビ畑は過去の風景となった。なお、竹南の製糖工場は原料不足に伴い、終戦前の1943（昭和18）年に操業を停止している。

列車は南を目指して進んで行く。しばらくすると、海岸線（海線）の線路が右手に離れていく。その先で、中港渓を渡る。

ここで縦貫鉄道は二手に分かれて南を目指す。山側を走るのが台中線（山線）、海沿いに走るのを海岸線（海線）で、縦貫鉄道として開通したのは台中線だったが、1921（大正10）年に勾配のない海岸線が敷設されると、急行列車や貨物列車はこちらを走るようになり、本線の扱いは海岸線に移った。

造橋～白亜の駅舎が残る小駅

造橋駅は日本統治時代に建てられた白亜の駅舎が訪問者を迎えてくれる。1935（昭和10）年４月21日に台湾北西部を襲った新竹・台中州大地震を受け、建てられた。日本統治時代後期に各地で見られた地方駅舎のスタイルである。当時、1923（大正12）年９月１日に首都圏を襲った関東大震災を経て、台湾の建築基準も厳格化されていた。そして、建築技術の向上もあって、鉄筋コンクリート構造の建物が増えた時代でもあった。昭和10年代に建てられた地方駅舎にはこういったタイプが多く、銅鑼（どうら）駅、二水（にすい）駅、路竹（ろちく）駅などがその姿を留めている。

造橋郷（郷は日本の「村」に相当）は人口約1.2万と、大きな町ではない。しかし、この地域の住民構成には特色があり、約85％を客家住民が占める。苗栗県住民の居住地域は顕著で、沿岸部にホーロー（河洛）人、山麓部に客家人、山岳部にアタヤル（タイヤル）族をはじめとする原住民族の人々が暮らしている。

なお、造橋駅の横には日本統治時代に設けられた駅長官舎が残されており、修復の上、保存されている。また、駅前には老家屋を用いたコンビニエンスストアがある。

造橋駅は小さいながらも存在感を示す白亜の駅舎。苗栗県は県民人口の約６割を客家人が占めている。

豊富～台湾高速鉄路との接続駅

造橋駅を出ると、列車は本格的な山越えの区間に入る。ここから后里（こうり）までは多くの隧

道があったが、最初の隧道となるのは、見返坂隧道である。この辺りの通称は「椪柑（ポンカン）山」と言われるほど、椪柑の栽培が盛んだった。

しばらくすると、台湾高速鉄路（台灣高鐵）が寄り添ってくる。この下をくぐると、豊富駅に到着する。この駅の名称はやや複雑である。当初の駅名は後龍だったが、海岸線（海線）の全通によって、そちらに後龍駅が設けられたため、こちらは北勢と改められた。そして、1967年になって、現在の駅名となった。

ここは台湾高速鉄路との接続駅であり、高鉄苗栗駅は約90メートル離れているが、屋根付きの連絡通路が設けられている。もともと、豊富駅は南に400メートルほど離れていたが、2016年９月10日に移転し、現在の場所となった。

台湾高速鉄路は2007年１月５日に板橋～左営（高雄）間が開業し、のちに台北、南港へと順延した。当初はここに駅はなかったが、2015年12月１日に設置された。駅舎はモダンな雰囲気をまとう現代建築で、屋根には太陽光発電パネルが貼られているほか、自然光をふんだんに取り込むことで、使用電気料を節約するなど、エコ建築としても評価されている。

なお、駅の近くには緑地が整備されており、客家文化のシンボルと目される「圓樓」も設けられている。

豊富駅を出た列車は後龍溪を渡る。後龍渓は雪山山脈の鹿場大山（2618メートル）を水源とする全長58.3キロの河川である。この一帯の農業を支えているが、長さに対し、海抜差が大きいため、台湾でも有数の急流となっている。

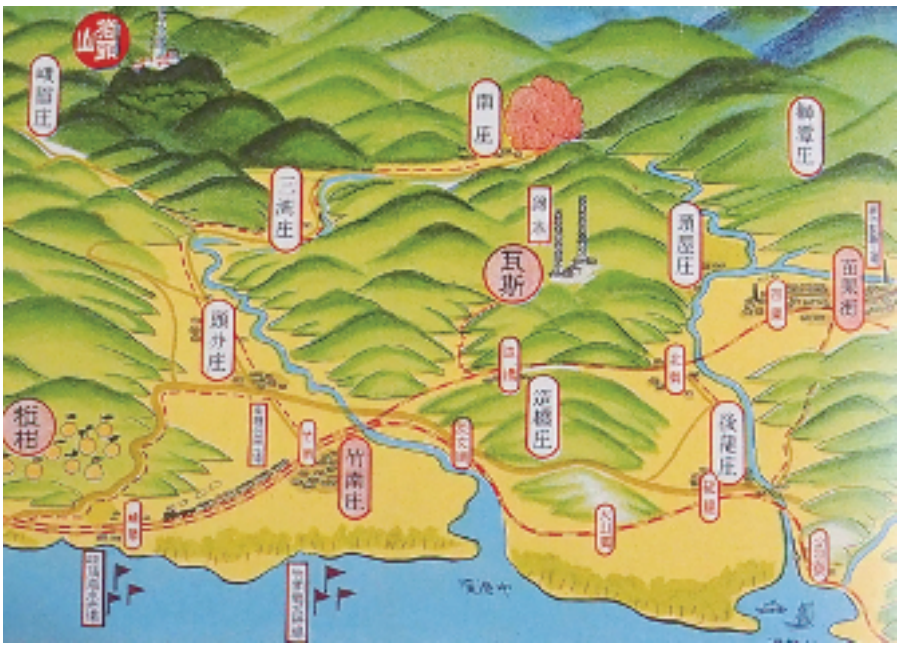
前方の河岸段丘上に工場群が見えてくると、列車は苗栗の市街地に入る。

苗栗～客家文化の中枢都市

苗栗（びょうりつ）県は客家（ハッカ）住民が多く暮らしている。苗栗市はその中枢となっている。客家人は質実剛健な気質で知られ、質素倹約であること、そして教育熱心なことでも知られている。街並みは地味な印象だが、それがかえって特色となり、週末になると、行楽客も訪れる。

古くは平埔族（平地原住民族の総称）のタオカス族が暮らしていた土地で、ヴァリィ社と呼ばれる集落があった。これはタオカス語で「平らな土地」という意味だったという。18世紀中葉からは客家住民の移入が始まり、「貓狸」と漢字が当てられた。「苗栗」の表記が定着するのは1886年頃だったという。

日本統治時代に入ると、水はけの良い土壌を利用した果実の栽培が盛んになった。特に柿とスモモ、ポンカン（椪柑）、タンカン（桶柑）で知られていた。柑橘類については、戦時期、満州国に



苗栗周辺の鳥瞰図。日本統治時代に編まれたもの（筆者所蔵）。

も多く輸出されていた。また、近隣で木材を豊富に産出することから、相思樹（そうしじゅ）を用いた木炭の製造でも知られた。

苗栗の南には縦貫鉄道最大の難所が控えており、補機の増結作業が行なわれていた。そのため、苗栗駅には機関区が設けられていた。乗客はここで小休止し、山越え区間に向かった。

現在、かつての機関区の跡地を利用した苗栗鉄道文物展示館がある。ここは台湾で最初の鉄道文化空間で、オープンは1999年６月10日。貴重な鉄道車両が静態保存されている。苗栗駅の裏手にあるため、駅からは大回りする必要があるが、蒸気機関車時代の設備や運炭練習場などもある。現在はリニューアルに向けて工事が進められている。

北白川宮能久親王と苗栗神社

苗栗を出た列車は右手に緩やかなカーブを描いて市街地を貫く。右手に緑地が見えてきたら、これが「貓狸山公園」である。日本統治時代には苗栗神社が設けられていた場所で、山全体が神苑となっていた。現在、神社の痕跡は残っていないが、神社施設の位置関係は推測が可能だ。

この山は日本統治時代、将軍山と呼ばれていた。1895（明治28）年、近衛師団を率いて抗日勢力の鎮圧を続けた北白川宮能久親王が馬を降り、戦況の報告を受けた。これにちなみ、「将軍駐馬之碑」が建てられた。その後、1923（大正12）年に皇太子（のちの昭和天皇）の台湾行啓に際し、ここに苗栗神社の創建が決まった。

神社は山全体を神苑とし、苗栗の家並みが一望できる場所に設けられた。鎮座は1938（昭和13）年11月４日。祭神には明治天皇、大国魂命（おおくにたまのみこと）、大己貴命（おおあなむちのみこと）、少彦名命（すくなびこなのみこと）、そして北白川宮能久親王だった。神社は敗戦によって廃社となり、戦後は中華民国の英霊を祀る忠烈祠となった。

出礦坑と錦水～台湾最大規模の油田

苗栗駅の正面には、かつて二本の大煙突と多くの石油備蓄タンクが遠くに見えていたという。ここは日本石油株式会社台湾製油所で、造橋に近い錦水（きんすい）や銅鑼に近い出礦坑（しゅっこうこう）で産出する天然ガスや石油を貯蔵していた。特に天然ガスで知られた錦水油田は新竹方面の産業発展に大きな貢献を果たしたとされる。両者ともに戦後、急速な涸渇が進んだため、操業を止めている。現在は史跡公園の扱いで整備されている。

出礦坑は台湾で最初に開かれた油田である。その歴史は清国統治時代の1861年に遡る。当時、この一帯の河水は「火が付く水」として知られていたという。台湾巡撫・劉銘傳は鉱油局を置き、これを官営事業としたが、財源が乏しく、ほどなく遺棄された。

久しく採掘は行なわれていなかったが、日本統治時代に入ると再び注目されるようになった。1904（明治37）年には台湾石油採掘組合が設備を整備し、採取を始めた。そして、のちに日本石油株式会社がその事業を受け継いだ。

また、錦水油田は造橋駅の南東にあり、天然ガスの産出量が多いことで知られた。造橋駅ではガス噴出の際に出る音を聞くこともできたという。

この油田も日本石油株式会社が経営していた。ガソリン採取工場では揮発油を製造し、ガソリンプラントでは廃ガスからカーボンブラックを製造していた。これはゴム工業や印刷インキ、塗料の原料になっていた。錦水のカーボンプラントは日本唯一の存在だった時期もあり、一時はここだけで日本の需要量の３分の１を生産していたという。

錦水油田は深層探鉱が実施され、1935（昭和10）年には深層ガス開発に成功している。昭和13年には錦水32号井で、3499メートルの採掘に成功する。これは当時、世界第10位の深井で、日本国内最深でもあった。なお、採掘用原動機は蒸気機関から電気動機への転換が図られたことも注目に値しよう（『帝国石油五十年史 技術編』による）。

出礦坑油田の様子。台湾最古にして、最大の油田だった。『台湾写真カード』より転載。

銅鑼～菊の花で知られる街

苗栗を出た列車はなだらかな丘陵地帯を駆け抜ける。南勢駅は小さな無人駅で、利用客数は１日当たり200名前後に過ぎない。周囲には家屋も少なく、いつ訪れてもひっそりとしている印象だ。ただ、この駅の近くには旧トンネルが残され、サイクリングロードとして整備されている。このトンネルは「銅鑼湾隧道」と呼ばれ、1903（明治36）年に開通したもの。ただし、現在は訪れる人もほとんどいない様子だ。

銅鑼（どうら）も客家住民が多く暮らす土地。沿岸部の通霄（つうしょう）や苑裡（えんり）に向かう道路が伸び、海岸部と山間部の重要な連絡口となっている。

ここは大きな街ではないが、地方都市らしい活気に満ちている。「銅鑼」という地名は東西を丘陵に挟まれ、東に後龍渓、西に西湖渓が流れている。その様子が楽器の銅鑼（どら）に似ているということで、付けられたと言われる。

銅鑼も日本統治時代の駅舎が今も使用されている。1936（昭和11）年４月に竣工した建物で、設計は台湾総督府技師の宇敷赳夫(うしきたけお)が担ったとされる。小さいながらも耐震構造が考慮された作りで、存在感を示している。

市街地の南西に位置する雙峰山は鋭い山頂が印象的な山。苗栗側からこれを眺めると、峰が２つに分かれているように見えるということでこの名が付けられた。高さは500メートルほどだが、山容秀麗ということで、「苗栗富士」とも称された。

銅鑼一帯は昭和製糖株式会社が設けたサトウキビ畑が広がっていたが、現在は水田や菊の栽培地となっている。菊はこの地の地場産品で、台湾茶に乾燥させた花びらを浮かべて楽しむ。毎年11月頃には咲き乱れる菊の花が見事な眺めとなる。

なお、雙峰山の奥には大阪の斎藤漆店（斎藤商店。現・斎藤株式会社）が設けた漆栽培出張所と農園があった。広大な土地を利用し、漆の栽培を行なっていた。

駅が設けられたのは1904（明治36）年10月７日。当時の駅名は「銅鑼湾」だったが、1920（大正９）年の地名改正で現在のものとなった。

三義～木彫り工芸で知られる街

三義は木彫り工芸の街として知られている。ここは旧名を三叉（さんさ）と名乗った。駅の開設は1903年10月７日。当時の駅名は三叉河（さんさほ）で、新竹から苗栗まで伸びてきた縦貫鉄道北部建設区間の南端で、終着駅だった。三叉となったのは1920（大正９）年10月１日の地名改正の時で、三義となったのは戦後の1955年３月１日であった。

左手の山麓一帯は蕨の名所として知られていた。右手の丘も初茸狩の名所となっていた。また、現在は見られなくなっているが、茶畑もかつては見られたという。これは日東拓殖株式会社が経営していたものだった。

現在、三義は木彫り工芸の郷として知られている。この辺りはかつてクスノキの純林が広がっており、樟脳の産地として知られていた。現在は樟脳の生産はなくなり、工芸の方だけが有名になっている。

縦貫鉄道最大の難所を越える

三義から后里までの区間は険しい地形が続く難所で、線路の敷設も困難を極めた。日本統治時代初期、縦貫鉄道の敷設工事は、既存の基隆～新竹間の改良工事、新竹以南の建設、そして、台南～打狗（現・高雄）間の建設の３つに分けて進められていった。

列車は三義を出ると長いトンネルに入る。かつては左に大きくカーブし、山あいに入っていった。かつて、ここは縦貫鉄道の最高所だった区間で、敷設工事最後の未完成区間でもあった。しかし、1998年９月24日に新ルートが開業。現在、列車は長いトンネルで一気に丘陵地帯を抜けてしまう。

縦貫鉄道敷設に伴う困難は本連載の第21回を参照されたいが、未成熟な建設技術で亜熱帯地域の鉄道を敷設する困難は想像に難くない。また、高温多湿な土地柄のため、疫病が蔓延し、感染や過労で命を落とす工員も多かった。縦貫鉄道の建設秘話には様々な逸話と悲話が多く存在している。

現在はトンネルでショートカットする新ルートを列車は走る。泰安駅付近。

勝興車站～縦貫鉄道最高所の駅

旧線は現在、一部区間が観光鉄道として整備されている。

現在、「勝興」と呼ばれている駅は、日本統治時代、「十六份（じゅうろっぷん）駅」と名乗っていた。ここが縦貫鉄道最高所の駅である。ここは台湾島の南北の地理的分水嶺であるとも言われ、気候もここから南は熱帯の要素が色濃くなる。

勝興の木造駅舎は現在も残されており、往時の面影を残している。海抜402.326メートルの地点にある。当初は信号場の扱いで、駅としてではなく、列車交換を目的に設けられた。1930（昭和５）年に駅に昇格したが、終戦とともに台湾鉄路管理局に移管され、「勝興」と名を変えた。

駅舎は木造平屋で、山小屋風のデザイン。用材には中国大陸産の福州杉が用いられたと言われている。屋根や梁には八卦の装飾が入り、風水を意識した配置にもなっていて、興味が尽きない。竣工は1912（明治45）年３月だった。

駅は２つのトンネルに挟まれた格好になっている。ホームからも南北にそれぞれトンネルがポッカリと口を開けているのが見える。南側のトンネルは「二号隧道」と呼ばれ、その上部には苔むしたプレートが残る。ここには「開天」の文字が記されている。これは縦貫鉄道の開業時、台湾総督府民政長官だった後藤新平が揮毫したものである。

トンネルは1905年（明治38）年２月28日に完成した。後藤新平はここのほか、1907（明治40）年８月31日に竣工した七号隧道の北口にも「巨靈讓工」の文字を残している。ちなみに、七号隧道の南口には当時、台湾総督だった児玉源太郎による「一氣通」の文字も残っている。

1998年に開通した三義－后里間の新ルートによって、この区間の大幅なスピードアップが図られたが、それと同時に旧線上にある勝興駅は廃止の憂き目に遭った。現在、旧十六份駅は観光用に整備された鉄道の乗り場となっている。

今も残る十六份（勝興）の駅舎。建物に釘が使用されていないことでも知られていた。

二号隧道と後藤新平揮毫のプレート。なかば苔むしているが「開天」の文字はわずかに確認できる。

地震で寸断された大動脈

1935（昭和10）年４月21日午前６時２分。未曾有の地震が台湾北西部を襲った。これは「新竹・台中州大地震」と呼ばれ、台湾史上最大の被害を出した。震源は台中の北東40キロの地点で、具体的には大安渓の上流部、大安（現・泰安）駅の東に位置していた。震度は7.1だった。

鉄道においては、十六份から后里までの間で甚大な被害が出た。ここだけでも７つのトンネルと３つの橋梁が瓦解した。特に第八隧道は倒壊により使用不能となり、魚藤坪（ぎょとうへい）と内社（ないしゃ）川に架けられた橋梁は橋脚が破損した。そのほか、地震によって地盤が不安定になったところも多く、修復工事は難航した。特に橋梁は修復だけでなく、万全な補強が必要なため、その復旧に時間を要したという。

縦貫鉄道は開業から約30年の歳月を経ていたが、震災は一瞬にして台湾の大動脈を寸断してしまった。この時、台湾中部では大半の駅が何らかの被害を受けたという。倒壊せずとも、使用に耐えなくなった設備が多く、信号機にいたっては、ほとんどが使い物にならなかったと報告書に記されている。

一方、この震災を経て、地震対策は確固たるものとなった。この震災では死者3276名、重軽傷者１万2053名、倒壊家屋は１万7907戸におよんでいる。台湾総督府は震災地復興委員会を設けて救援作業にあたり、新竹や東部の新港（現・成功）、東北部の宜蘭などに地震観測所が設けられた。そのほか、建築基準を厳しくしたり、耐震構造の研究を進めたりした。鉄道に関しても、震災に備え、各地で念入りな補強工事が実施された。

震災の傷跡として残される「断橋」

観光鉄道の拠点として設けられた龍騰駅の先には魚籐坪橋梁が見える。ここは縦貫鉄道敷設において、最も架橋に苦労した場所とされている。一帯は小河川が多く、通常の流水量は少ないが、降雨があると一気に増水する。そのため、念入りな事前調査が不可欠だった。

この橋梁は1906（明治39）年４月30日に着工され、翌年６月１日に完成した。設計を担ったのは三叉河出張所の所長だった稲垣兵太郎（いながきへいたろう）で、久米（くめ）組が施工を担当した。

この橋梁は新竹・台中州大地震で瓦解した。橋桁は落ち、橋脚にはひびが入った。いずれも致命的な損傷である。補修と加強を施せば、再利用は可能だという意見もあったが、最終的には安全策が採られ、現在の場所に新しい橋梁が設けられることになった。

その後、瓦解した橋は橋脚だけが残った状態で半世紀以上も放置されていた。深い緑のなかに眠るその姿は何とも言えない情緒を醸し出していた。

現在、ここは行楽地として整備され、案内板が整備されている。台湾では日本以上に産業遺産に対する関心が高く、こういった鉄道遺産も数多く残され、手厚く守られている。

橋脚は渓流の南側に４座、北側に６座が残っている。これを現地では「断橋」と呼び、地名を付して「龍騰断橋」と名付けられている。

付近は公園として整備されており、駐車場などもある。訪問者は多く、足を運んでみると、人々の関心の高さがうかがい知れる。週末には、橋脚前で記念撮影を楽しむ行楽客が後を絶たない。

旧線はレールバイクが楽しめる観光鉄道となっている。週末は予約必須の人気ぶりである。

地震によって瓦解した橋脚。現在は史跡に指定されている。

２つの大橋梁と史跡になった駅跡地

この先にも鉄道遺産と呼ぶにふさわしいものがある。

第七隧道を抜けた先は大安渓橋梁が今も残されている。この橋は５年の歳月をかけて、1908（明治41）年２月14日に竣工した。当時は縦貫鉄道最大規模の架橋工事と言われたが、ここも新竹・台中州大地震で破損し、大がかりな修復と加強工事が実施された。

さらに先には大甲渓橋梁もある。ここは九号隧道の出口から橋梁が始まっている。この橋は1908年４月10日に完成し、縦貫鉄道建設における最後の工事現場となった。現在はサイクリングコースとなっている。

また、日本統治時代に大安を名乗った駅舎も健在だ。ここは戦後に「泰安」と名を改められている。新ルートの開通によって、列車は来なくなって久しいが、駅舎は史跡として保存されており、構内は現役の頃のままの状態で開放されている。はずれには「台中線震災復興記念碑」も残されており、見学が可能だ。

旧泰安駅の構内には台中線震災復興記念碑が残る。現在の泰安駅からは約１キロの距離。

米どころとして知られた豊原

列車が長いトンネルを抜け、大安渓を渡ると泰安駅、そして后里駅に着く。この辺りは平地となっており、列車の走りも軽快だ。車窓には田園風景が広がり、稲穂が敷き詰められた絨毯のように見える。そして、大甲渓を渡ると、豊原（とよはら）に到着する。

豊原は台中市北部の中枢で、沿岸部と山岳部の接部に位置している。台湾西部最大の米どころとして名を馳せ、湿潤で温和な気候に恵まれていた。付近一帯が平原であったことから、全土を代表する穀倉地帯となった。

豊原の旧名は「葫蘆墩（ころとん）」といった。その後、1920（大正９）年の地名改正で、「豊原」となったが、その由来も興味深い。ここは台湾最良の米として知られた「葫蘆墩米」の産地であった。日本統治時代に入る前の台湾においては、指折りの穀倉地帯でもあったため、改称の際、『豊原瑞穂の国』の言葉から豊原とされた。

景勝地でもあった八仙山

豊原は八仙山（はっせんざん）の玄関口でもあった。八仙山は阿里山、太平山と並ぶ台湾三大林場の一つ。景勝地でもあり、1927（昭和２）年には「台湾八景」にも選出されている。八仙山の由

来は一帯の海抜が8000尺前後だったことにちなむ。避暑地としても知られ、絵はがきなどの構図にもなっていた。

なお、八仙山とは独立した山峰の名ではなく、地域名である。常葉樹が生い茂る森林地帯で、台中軽鉄株式会社の経営する鉄道が豊原を起点とし、石岡（いしおか）を経て、土牛（どぎゅう）まで走っていた。

八仙山は山麓部が亜熱帯、上部は温帯に属しており、手つかずの原生林が広がっていた。伐採事業の本部は佳保台（かぼたい）という地に置かれていた。その先も同社が経営する台車軌道（トロッコ）の路線があり、営林所が経営する路線も林場まで敷設されていた。そして、佳保台には東洋最大と謳われたインクラインが木材運搬用に設けられていた。

ここには名湯の誉れ高い明治温泉もあった。現在は谷関温泉という名になっているが、その名声は色褪せていない。ここは1907（明治40）年に当地に赴任した警察官が発見したものとされる。当初は秘湯の雰囲気に包まれていたが、道路の開通により、台湾中部を代表する温泉郷となった。泉源は大甲渓の畔に湧いており、美しい眺めが楽しめた。

八仙山は台湾を代表する景勝地の一つだった。日本統治時代に発行された絵葉書（筆者所蔵）。

台湾第二の人口を誇る台中市へ

豊原を出た列車は豊かな穀倉地帯を進んでいく。最近は工場の進出が著しく、田園風景というよりも、工業団地のような中を線路が貫いている。鉄道は高架化されており、豊原駅もモダンなデザインだが、ここはすでに台中の都市圏であり、通勤・通学輸送の需要が大きい路線となっている。

次の潭子は大きな駅ではなく、優等列車も停車しないが、近年発展を続ける台中のベッドタウンとして、乗降客も増えている。2002年11月22日には太原駅も設けられ、朝夕には通勤通学ラッシュも発生している。

列車が右手に緩やかにカーブを描くと、台中に到着する。人口は約281万となっており、新北市に次いで台湾第二の都市となっている。台中は台北とも高雄や台南とも異なる独特な雰囲気をまとった大都会である。

豊原駅は高架化され、装いを新たにしている。台中都市圏の発展は著しいものがある。

日本台湾交流協会事業月間報告

9月	内容	場所
3～8日	馬永成・賴清徳選挙対策本部策略グループ執行長招へい（主催）	東京都、石川県
8～9日	2023年第4回台湾地方創生年会（名義）	新北市（新北市政府多功能集会堂）
9日	第十回全国大学院生ワークショップ（助成）	台北市（台湾大学）
9日	JENESYS第1回同窓会（主催）	オンライン
13日	領事出張サービス	台中市
13日	にほんごサロン（主催）	高雄市 （高雄事務所日本文化センター）
16日	文化講座「赤べこ絵付け体験」（主催）	台北市（台北事務所）
16日	2023年度輔仁大学日本語学科学術シンポジウム 【川端康成没後50年シンポジウム―〈転生〉する川端康成―】（名義）	台北市（輔仁大学）
16～17日	TAIWAN PLUS2023台日一緒に（後援）	東京都（上野恩賜公園）
19日～10月27日	台湾人介護専門家研修事業（主催）	長野県（佐久大学）
20日	日本語の教え方講座（主催）	高雄市 （高雄事務所日本文化センター）
21日	領事出張サービス	台南市
23日	日本映画「HOKUSAI」上映会（主催）	高雄市 （高雄事務所日本文化センター）
26日～10月22日	公衆浴場国際交流プロジェクト（後援）	東京都（妙法湯）
27日	日台パートナーシップ強化セミナー（共催）	つくば市
28日	邦人留学生向け安全対策セミナー	台北市（台湾大学）

TAIWAN PLUS2023 台日一緒に（後援）

9月16日～17日の2日間、中華文化総会主催の「TAIWAN PLUS 2023台日一緒に」が東京・上野恩賜公園にて開催され、当協会谷崎理事長が開幕式に出席しました。谷崎理事長は、TAIWAN PLUSで紹介される台湾のグルメ、台湾製品及び音楽が日本に様々な波及効果をもたらすことを期待し、日本人の訪台者数の復活と日台交流の更なる発展に寄与することを確信している旨述べました。

会場の様子

谷崎泰明理事長

維持会員制度について

公益財団法人である当協会では、事業に要する資金の一部を民間資金により補っております。このため設立当初より「維持会員」制度を設け、台湾へ進出して現地の工場、営業所または出張所に駐在員を派遣している企業、台湾と取引関係を有する企業、そのほか台湾に関心を有する企業、団体等にご加入のご協力をお願いしております。

加入いただきました会員の皆様には、台湾の経済開発、市場動向等についての最新情報を提供するため、当協会の会報「交流」（最新台湾経済等の情報、月１回発行）のほか、「台湾の経済DATABOOK」等の各種刊行物、資料を発行・送付しております。また、会員の皆様向けに当協会台北事務所長による台湾情勢に関する「維持会員報告会」を東京において年１回無料で開催している他、「台湾情勢セミナー」を年間数回無料で開催しております。さらに、貿易投資アドバイザーによる相談窓口も設けております。

［維持会員の特典］

1．各種刊行物、資料の提供
以下の出版物等を随時提供いたします。
- 台湾情報誌「交流」（月１回発行）
- 台湾の経済DATA BOOK（年１回）
- 委託調査（毎年テーマを選定して調査を実施し、報告書として取りまとめたもの）
- その他知財等の調査資料

2．台湾情勢に関する維持会員報告会御出席
台北事務所長が台湾情勢について報告いたします。

3．台湾情勢セミナー御出席
台湾の経済産業界の方々を講師として年に数回開催いたします。

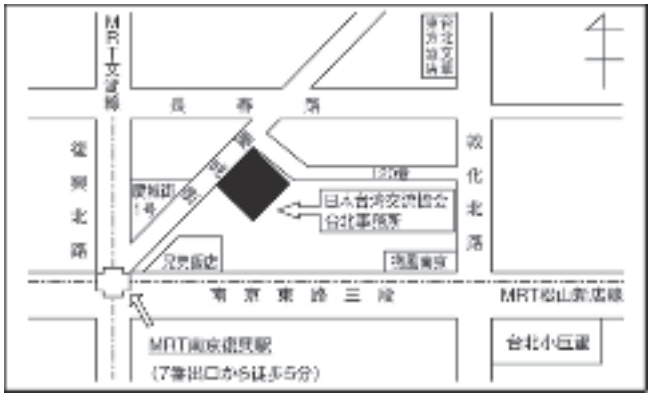
4．貿易相談窓口のご利用
貿易投資アドバイザーによる相談窓口を設けております。
本制度に関するご照会、加入お申込みについては「公益財団法人日本台湾交流協会　東京本部　総務部　庶務室」までご連絡ください。

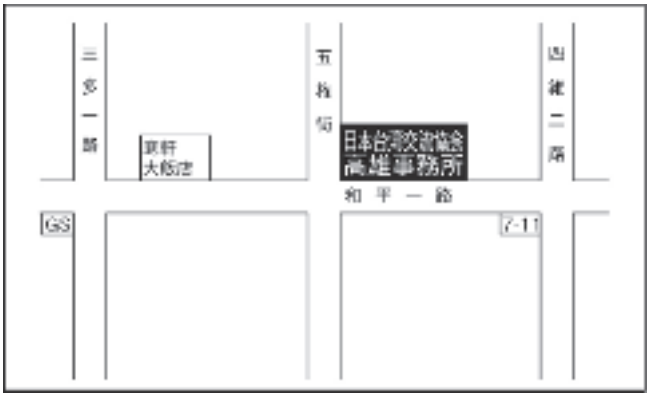
維持会費　１口につき年間12万円

交流　2023年10月　vol.991

2023年10月25日　発　行

編集・発行人：花木　出
発　行　所：郵便番号　106－0032
東京都港区六本木３丁目16番33号
青葉六本木ビル７階
公益財団法人　日本台湾交流協会　総務部
電　話（03）5573－2600
ＦＡＸ（03）5573－2601
ＵＲＬ http://www.koryu.or.jp（三事務所共通）
表紙デザイン：文唱堂印刷株式会社
印　刷　所：株式会社丸井工文社





台北事務所：
台北市松山區慶城街28號　通泰大樓
Tong Tai Plaza., No.28, Qingcheng St., Songshan Dist., Taipei City
電　話（886）2－2713－8000
ＦＡＸ（886）2－2713－8787

高雄事務所：
高雄市苓雅區和平一路87號　南和和平大樓9樓・10樓
9F/10F., No.87, Heping 1st. Rd., Lingya Dist., kaohsiung City
電　話（886）7－771－4008（代）
ＦＡＸ（886）2－771－2734

ISSN 0289-9191

日台友情
Always Here

交流　Vol.991　2023年10月号
2023年10月25日発行(毎月1回25日発行)　公益財団法人 日本台湾交流協会